

395  
195



始



395-195

みづ 畫 を 學 ぶ 人 へ

三 宅 克 己 著

東 京

極 光 社



K. [Signature]  
Antwerp

白耳義安頓卡卡  
三宅克己筆



### 序

この書は最近洋畫界の現状を説いて、其うちに在つて水彩畫を學むて行かうと志望される諸君の爲め、其心得の一斑を述べたものです。挿入した寫生畫に就て、一々感想を述べましたから、彼我對照して多少の利益があらうと思ひます。

この本は、水彩畫を學ぶ用具や、繪具や、其用法の單なる説明ではありません。これらの道具を用ゐて、畫を描くその心得を書いたものです。畫を描くのは、繪具や、筆や、紙の爲めに描かせて貰ふではありません。つまるところ、それ等の用具を使用して、吾々が繪を描き上げるものものです。吾々は何處までも、繪具や、紙や筆の主人です。これ等の物を使用して行く主權者です。主權者の頭が極まらずに動いて居ては、奈何しても甘い繪の出來やう答がありません。

この本を一度讀むで、動き易い頭が多少共に落着いたら、書いた私の悦びはこれに越したことはありません。

大正十年八月

著者識す

大正  
10 10 19  
内交

## みづ書を學ぶ人へ(目次)

一 現今の洋畫……………	一
專問に學ぶ人々は……………或る所に一人の畫の先生があつて……………中村不折氏は最近某雜誌で……………佛蘭西に居た時……………歸朝以來自分には……………世界の藝術は……………處が西洋崇拜……………好事家が畫を學ぶにしても……………	
一 水彩畫に就て……………	三二
水彩畫と油繪……………	
一 挿畫の解説……………	三三
一 初        秋(三色版)……………	三六
この畫は十月初め頃……………寫生をするには……………景色の内が一番高い森とか樹木は右とか又少し左に描く可い……………空は……………この畫の黄色い部分は……………	
一 靈        岸        橋(同)……………	三三
日本には昔から景色畫として……………西洋の町を畫として寫すには……………先づこの場所を寫生するに……………	

最初に雲から描きます……家根から以下家屋の色は……

一箱根山(同)……………三七

この寫生畫は……近來は西洋の大家の描いた版畫を見たり……この圖は山に雪がかゝつて居ますが……中景に現はれて居る樹木……道路の色……山景を寫生するのは……

一箱根の夕(同)……………四三

小田原國府津邊の夕陽は……一枚の夕陽の景を描く人々が……野外寫生は……總て夕景を寫生する時……私はこのスケッチに……中景の松の森は……近景には暗い部分の色彩を現すに……洗つて描……

一雪景色(同)……………四九

雪景色を研究するのは……水彩畫で雪を白く寫すのは……この雪景に用ゐた色は……それで最初は矢張り鉛筆で……雪景色を描く時……この畫の遠景は……

一京都の町(同)……………五四

市街を畫とすることは……一體關東地方の色彩は……又一般關西地方の空は……それで私がこのスケッチを描いた順序を……中央の練塀から右手前の家屋には……左手の松の幹や枝……序ながら述べて置きますが……

一小見川(同)……………五九

西洋畫で墨を使ふと云ふことは……斯様な黒ずんだ色彩は……因襲的觀念に囚はれて居る人々は……私はこの畫に墨を使いました……空と水の色が塗れたなれば……私の寫生した位置……綠の樹木斯様な景色の場合……

一霞ヶ浦の雨後(同)……………六五

空を主とする景色の寫生は……空の研究は……それからこのスケッチには……それでこの寫生畫の順序を述べる……水平線が極まつて輪廓が取れたら……次に遠景の暗い森の山……最後に雨後の景は……

一大磯の附近(同)……………七一

これは夏景色ですが……結局色彩を紙面塗るに云ふ考を止めて……この寫生畫は……空の寫生が終つたら……山に生へて居る松や其他の樹木……

一半小屋……………七六

このスケッチは……寫生上の注意と其方法に就て……全身黒い牛は……手前の木柵は……この寫生の場所は……このスケッチを参考として……

一用具一般……………八一

一繪具

具

水彩畫を描くにあたつて……同様な色を使用しても……併し自由なものだから云ふても……エメラルドグリーンにしても……朱としてのパーミリアン……白としてのチャイニイスホワイトは……黄色として……水淺黄として……インデゴは……ライトレッドは……アイボリーアラツクは……ペールクロームは……ヴァントシイナは……セビヤは……サツプグリーンは……

一畫用紙

水彩畫の用紙は……ワットマン紙は……一例を掲げて御話すれば……紙に塗つた繪具を洗ふのに二つの場合がある……注意して置きたいのは……水彩畫に木炭紙……

一畫筆

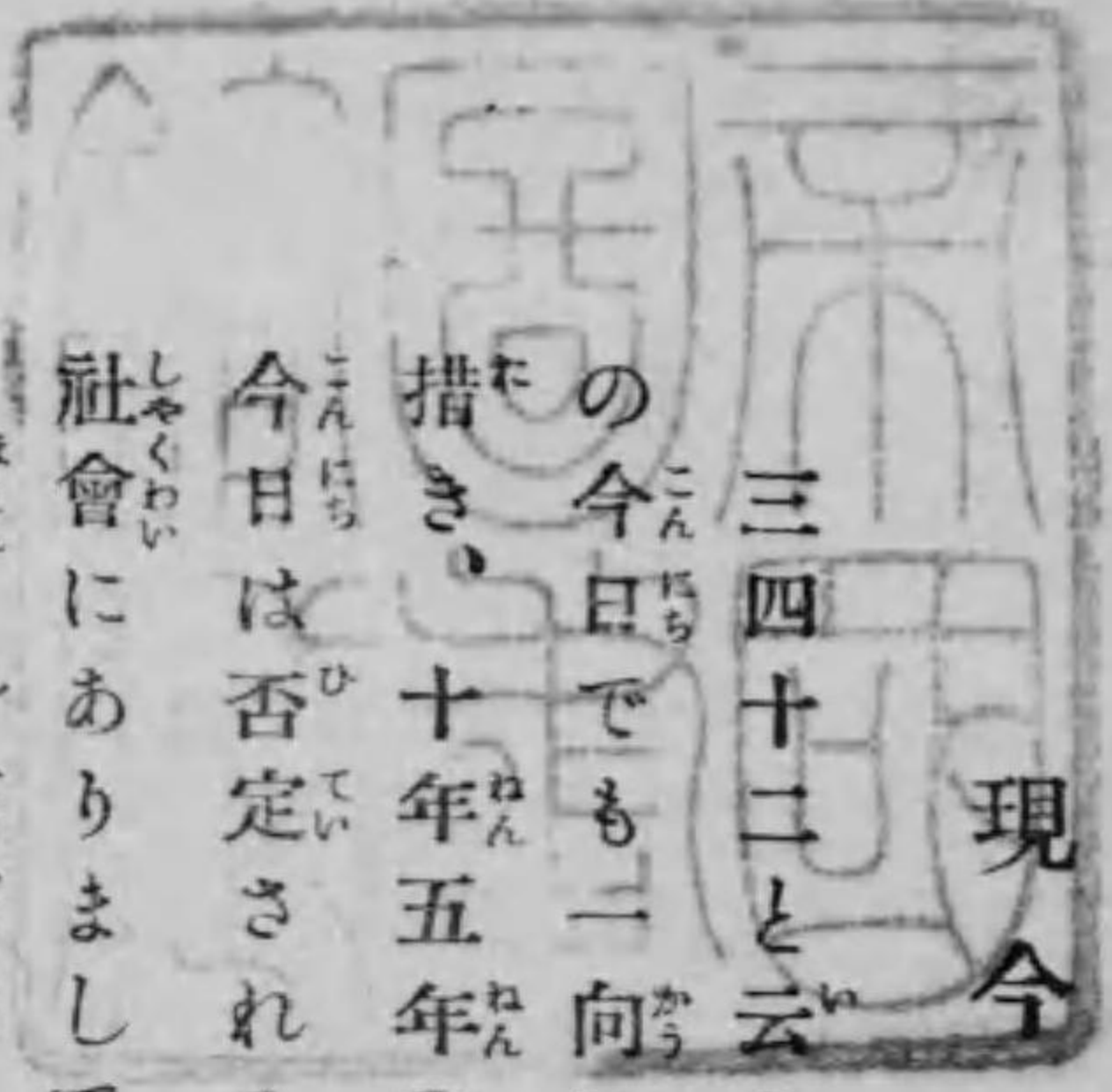
それから此度は筆の事を話しませう……寫生に要する筆の種類は……

一鉛筆、畫版、日傘

先づ第一に繪具で描く前に……併し若し輕便主義を實行すれば……今諸君の参考に……その他畫架とか日傘とか……寫生の時……巴里附近で寫生して居る畫家を見ると……

みづ畫を學ぶ人へ

三宅克己著



現今の洋畫

三四十二と云ふ數學上のこの原則は、百年前も千年前も、又現在の今日でも一向に變化はありませぬ。併し美術の見解は百年はさて置き、十年五年のうちに全然變化して、前には是とされて居たものが、今日は否定されるやうな事が多くあります。特に日本現今のやうな社會にありましては、五年は愚か一二年のうちにも、種々に變化して殆ど始終動搖の状態にあります。それで其變化を進歩の現象とも見れば見られますが、強風の吹き晒す海岸には、樹木が圓滿なる發達を遂げず、皆風の爲めに曲つて了ふやうに、美術も餘り外來の風

に強く吹かれ過ぎると、變化があつて如何にも進歩して行くやうに見えるが、其實單に變化であつて、進歩發達と云ふことは出來ない場合があります。

公平な御話が今日日本の美術は、殆ど外來の思潮により、左にも右にも打流され、絶えず流轉漂變限りなく定まる所が無い有様です。靜かに落付た研究の末、自然に變化するその變遷は貴いものですが、單に一時的猫眼的の變化は餘り面白い現象とは云へません。

それが面白い事であつても、亦甚だ面白からぬ憂ふべき事であつても、現に日本の美術界は、風の強い海岸に培養されて居る植物のやうな状態だと云ふことは、争はれぬ事實だと思ひます。今の日本の吾々は、斯様な六ヶ敷く且つ騒々しき社會のうちに、畫を描いて行かなければなりません。又畫を學んで行かなければなりません。

蓋しこれは一般世界の風潮で日本許りで無く、全世界皆何所も到る所多少斯様な落付きの無い空氣に鎖されて居る譯ですが、就中日本などは、最もその強い濃厚な空氣の裡に呻吟して居る譯です。だから専門に畫を學ぶ人の困難は云ふ迄も無く、益々困難の極に陥るばかりです。

又好事家として、畫を學びこれを楽しまうと云ふ諸君に取りても、其進むべき方針。取るべき道筋が、愈々複雑になる許りで、迷ひに迷ふて折角の慰藉も迷霧に鎖されて、終に光を失ふやうな場合が無いとも限らぬやうです。詢に歎すべき次第と云ふの外ありませんが、何れにしてもこの際、迷はず惑はず落着いて自分の信する方針に向ふて進むより他に道はありません。

自分の信する所を進むと云ふことは、昔から誰も好く云ふ事で、



珍らしくも無い常套語になつて居ますが、倍てこれを実行すること  
 は甚だ容易で無い。奈何も時の風潮に動かされ易いのが人情です。  
 某皮肉家は、自信力の強い人は餘程豪る人か、又一層足り無い人だ  
 と云ひましたが、實際そんなものかも知れません。  
 専門に學ぶ人々は、何んでも新しい事柄を知つて、世上の先驅者  
 と立つ必要上、自分の趣味を基礎とするより、寧ろ世の流行を標準  
 とする不心得事情もありませうが、好事家に於ては何所までも各自  
 の慰樂を基礎として進まれて一向差支無いものと思ひます。世間の  
 流行が奈何でも一向に構ひません。その流行が自分の趣味に合つて  
 居れば大にそれに向ふて進むが可し、又不幸にして合は無ければ別  
 に自分の道を見出すより外ありません。趣味にも合はず、又自分に  
 理解の無いものを無理に自分を曲げて、時の流行に合はせる事は

決して賞めた御話ではありませせん。

或る所に一人の畫の先生があつて、その御弟子を深切に且つ熱心  
 に教へて居ました。其先生は俗に謂所新しいと云ふ方で、色彩の事  
 々には特に注意深く、一つの主張を持つて居まして、それを其御  
 弟子にも教へて居ました。物の色には決して單純な色彩は無く、赤  
 や黄や青と、複雑な色彩の結合したものである。だから暗い黒いと  
 見える影の色も、紅や青や黄色を使ふて描かなければならず。又進  
 むに従ふてさう見えて來ますと教へて居ました。處が其御弟子の頭  
 が遲鈍なのか、一向にさう美しい色に見えない。黒い漆塗りの御盆  
 は矢張黒に見え、黄色いオレンジの影に紅や青が見え無い。  
 出來上る畫は何時も平凡なもので、先生の心配は一通りではあり  
 ません。頻りに先生一流の色彩論を説き立てます。ある時御弟子さ

んは餘り先生に御氣の毒だと云ふので、試に先生の平素説かれる美しい色彩を塗つて見ました。自分としては如何にも可笑く思ふが、世間には義理と云ふこともあると云ふので、其御弟子が先生に義理を立てました。處が先生其書を見て、非常の恐悦。貴方の眼も漸く物の色が見えるやうになつたから、これで既う安心だと云ふので、大に悦むだと云ひます。

これは私の造り話で無い確かな實話ですが、世間にはこれと似た話は澤山あらうと思ひます。近來は自由畫教育と云ふ説が一部に提唱されて居ます。私は未だ其主義を詳細に聞きませず、又知りませんが、人には各自の趣味がそれ々と相違して居ますから、なるべく自由に發達させると云ふのは、詢に至當の説と私も思ひます。兎角人間の性情として、自分が好いと思ふと、總ての人々を皆自分と

同様なものにして了はなければ承知しません。併し世間の人は存外に多い。自分のやうになる人もあれば、又到底ならぬ人もあります。こんな型は奈何しても打破つて自由にならねばならぬと云ふ人々があります、其人々は一つの型は打破つても、又新しい自分の型を造つて得意で居る人です。これは西洋の豪ゐ大家連にしても皆さうです。西洋にしてその通りだから、其尻馬につく日本では無論のことです。

中村不折氏は最近某雜誌で次のやうに説かれた。  
個性云々の言葉が、近來頻りに畫家や批評家の口に上るやうだが、不幸にして自分は今日までさういふ畫家の畫にも、批評家の批評にも、眞實個性を主んじてゐるらしい表現も言葉も見聞きしない。或は個性といふことの眞實の理解さへないのぢやあるまい

かとも疑はれる。この頃の書壇は滅法にセザンヌ張りの書を描くやうだが、洋畫家はまだしも日本畫家さへそれを真似するのは、實以てその意を解するに苦しむ次第である。セザンヌの作にいゝものがあるとするれば、それはセザンヌそれ自身のものだけにいゝのであつて、それを模倣し、追隨するのは寧ろ馬鹿げたことである。本統に個性を尊重するのなら、今時セザンヌの真似などしてゐられる場合ではないと思ふ。

日本人はもつと天然の研究をやらなきやならない。妙な癖で、少し天然の研究をすると、彼は寫眞をやると直ぐに言ひ蔑すが實はその寫眞が却々出来るもので無い。もし馬鹿になつて寫眞屋になる覺悟があつて欲しいものである。日本人に一番閑却されて居るのは感想である。氣分が何うのかうのと云つて騒ぐのは、我

々にはどうも合點が出来無い。何か其所には『氣分』といふ特別な一つの型があるらしい。所謂氣分がよく出てゐるとか、ゐないとかいふのは、その『氣分型』に嵌まつてゐるかゝるないかを指すものらしく、本當の氣分とは何んだか少々距離がありさうに思はれる。

餘り成功を急ぐのが第一に成功しない原因であらう。ミレーにしてもセザンヌにしても、初めて世間に認められたのは五十歳。七十歳といふ老年になつてからのことであつて、それまでは晏如として仕事をしてゐたのだ。本當に甘くなれば、世間は自然と認めなければならなくなつてくる。近頃の人は、やれ個人展覽會のつたの轉んだのといつては、世間の風向きを見て歓迎される方面の研究にのみ没頭する。まことに卑しむべき藝術心と云はなけ

ればならぬ。そんな事で四十位になると、モウ精力が盡きて、五十六十となると段々退歩して、西洋人が一ツばし世間に認められる頃の年には何にも出来なくなつてしまふ。

眞理なりと認められたものを熱心にこしらへ上げよ。いゝ品物になればなるほど餘計年限のかゝるのは自然の理数である。そいつを青年時代にくだらなく精力を費してしまつて、後は退歩し滅亡してしまふ。これが日本人の一般の遣り方だと思ふ。

變な話は天才と云はれる人間が、例へば文展で二等賞を取つて死ぬとすると、その人間は永久に天才の名を冠せられる。菱田春草氏の如き然り、何でもが最高潮に達した時死んだ者が一番利巧と云ふ事になる。しかし勿論さういふ事は一時の現象であつて、永くは續かない。眞の天才なれば、そんな死んだ當時で無く、百

年二百年の後初めて光彩を放つて、それは何萬年の後にも消滅する事はない。

自分は他から聞いて感心な行動を取つて居ると思ふのは朝倉文夫君である。この洋行流行の昨今にあつて、朝倉君は洋行なんかしないと云つてゐるさうだ。その言ひ分として、そんなに行つたり來たり間諜々々してゐる間に、自分は自分の仕事に精出してゐればよいといふのだ。それは自分も同感である。奈良朝から藤原、鎌倉へかけての仕事を見ても、支那との交通が盛んな時よりも、杜絶えて後に本當にいゝ仕事は出来てゐる。彫刻で云へば定朝や雲慶や春日の光長など、あの繪巻物全盛の時代は、皆交通の絶えた後になつてゐる。西洋との交通も今の頻繁さがなくなつた後に、或はいゝ藝術が生れるかも知れない。

イソップ物語にあるあの犬の話——一片の肉を啣へた犬が橋を  
 通る際、水に映つた自分の影を見て、自分の肉を落してしまふと  
 いふ話、日本の今の畫家にはそれに似たことがありはしないか。  
 佛蘭西に居た時、シスレーは自分に向つて、寫生畫を描くには、  
 毎日同じ時刻に同じ場所に通はなければならぬと云つたが、今に  
 して考へると、必ずしもさういふ事は云へまいかと思ふ。自分は  
 四年前、紅葉を見に礁氷峠に行つたが、その時時から噴煙が直線  
 に流れてゐる淺間山を望んだ時、日没の刹那にその噴煙がバツと  
 赤く燃えて、麓の赤松帯が一刻に紅をさしたやうに見えた瞬間の  
 光景にひどく打たれたので、是非この瞬間を掴みたいものだと思  
 ひながら、ふと下を見ると、意外にも友人である有名な畫家が、  
 自分の見た通りの景色をもうすつかり畫布に收めてあるを見ると

畫は却々よく畫けてはゐるが、自分の感想とはまるきり違つたも  
 のであつた。その翌日も同じ時刻に同じ場所に立つて見たが、彼  
 の瞬間の美的感念は起きなかつた。で止むなく歸つてきたが、ど  
 うにもあの瞬間が眼についてならぬので、冬に入つてまた行つて  
 見たが、モウ全く違つたものになつて居た。翌年の秋を待つて行  
 つたが、遂に是亦畫にならず、去年モウ一度と思つて行つた時偶  
 然にも二年前の感想その儘の景色が浮んだので、それも僅々五分  
 間許りの間に消えてしまつたが、どうやら思ひ通りのものが描け  
 たことがあるので、シスレーの言葉のやうに、同じ時と場所毎  
 日行つても、思ふ通りの感想は決して得られるものでないことが  
 知られるのである。

歸朝以來自分は殆んど人物研究の爲にこれまで仕事を追はれて

わたのだが、これからは景色畫をミツチリやつて見たいと考へてゐる。モデルのない日本にあつては、或は人物畫といふことは根本に於て、出來ない仕事なのではないかとも考へられるし、自分の最後の到達の道は景色畫にあるのぢやないかとも考へられる。唯これまでのやうな西洋のいゝ畫にしても、あゝいふ「景色の靜物」見たいなものは描きたくないと思つて居る。

この説の内には賛成の點が多くあります。これは専門家ばかりでは無く、好事家一般が聽いても大に參考とならうと思ひます。「個性を尊重するのなら、今時セザンヌの眞似なごして居られる場合で無いと思ふ」と云はれたがその通りである。私は更に好事家諸君がセザンヌの眞似をした其畫の眞似を又更にするのなご愚の極と云ひたいのです。又「氣分型」と云ふ事をも云はれたが、確かにこの型は

ある。本統の自由の氣分は、氣分とは認められぬ傾があります。それから洋行流行の昨今、日本に落着いて研究をされてる彫刻家の朝倉文夫氏を推賞されて居ますが、私も同感です。勿論この事は自信力が強く天才的な同氏のやうな技術家にして初めて出来ることで、平凡の作家にはこの眞似は出來ぬから、誰も朝倉氏の眞似をする譯に行きませんが、徒らに西洋くと云ひ、人種、人情、風土。地形萬般の上に非常の相違ある西洋の作風を、一も二も無く日本で眞似てるうちには、本統の日本藝術は生れ出ぬかも知れません。又西洋の事を氣にかけぬ朝倉氏のやうな技術家が、本統に日本固有の藝術を生む人かも知れません。

併し世界の藝術は御互に外國の刺戟を受けて發達して行き合ふものですから、外國の藝術を研究するのは最も肝要のことですが、今

日の様に何事でも唯西洋を崇拜し、西洋の真似が一寸出来たからと云ふて悦びもし、又世間にも持てると云ふやうでは本統の藝術は望まれ無いかと思ひます。好事家にしても矢張其通りで、外國の本でも讀むでヒドク感心し、其氣持をもつて日本の風物で、その氣持を描き現はさうとします。元來無理な仕事だから結局は一時的のもので、永久に自分の慰樂として行くことは出来ぬかと思はれます。それから不折氏は、人物畫は日本にモデルの好いのが無いから、根本的に於て出来ない仕事なのではないかとも考へられると云はれて居りますが、これは私の持論で、この事は屢々私も論じて居ます。西洋では昔の希臘思想から段々これが傳はつて、今日でも人體美を尊重する風が残つて居る。それが軟化して佛蘭西の婦人の裸體畫などになつた。これが藝術上進歩して來たのか、又退歩して來たのか、

夫れは學者の議論に譲つて、事實佛蘭西なればこそ婦人の裸體美は本統にある。これを描く事は決して無理でなく極めて自然と云ふことが出来ます。

處が西洋崇拜。西洋模倣を敢てして居る日本では、實際に裸體美の無いのにも不拘、非常な無理して婦人裸體畫を描いて居る。作畫の骨折其困難は實に察せられます。山岳の無い滿洲の廣原で緑の山景を描くやうなもので、極めて無理な仕事です。こんな無理な仕事をやつて居る間は、日本の美術も大概相場は極つたものです。奈何しても絶えず外國の真似即ち西洋の模倣を爲て行かねばならぬやうでは、日本には終に立派な美術は興らずに立ち消えになつて了ふ外無いと心配に堪えません。

兎に角前にも申した通り今日外來の思潮の強烈なことは想像以上

で、例へば外國の百姓の拵へたものを真似たやうな物を悦んで見たり、又あの西洋人の體格で初めて躍り得るダンスを、無理な日本婦人が真似てみたり、又佛蘭西人が佛蘭西に居て初めて描き現し得る畫風を、この遠い日本でセッセと真似て見たり、其他随分不自然極まる真似が流行る。

其内幸に一つ位は當るものもなくては困るが、靜かに彼我が國狀。風土。人情等それ々の相違を考へて見ねばなりません。奈何しても日本では日本を土臺として進むで行くより致方無い。

それで専門家ならぬ好事家が、畫を學び又これを描いて行くにも安心して自分を信じ、自分の頭や眼によつて行くより外無いと思ひます。西洋人の皮膚の色は日本人より遙かに美しい。だから日本人を描くにもその色を用ゐれば美しく描けやうが、それでは既う自然

ではありません。

西洋の風景の色彩にしても日本より確に美しい。だから西洋風の色を用ゐれば氣持の好い畫は確かに出来る。併しそれが日本の自然では無い。美術家が必しも自國の特長を基礎として自國の自然に従がつて製作して行かねばならぬものだか奈何か、これは又六ヶ敷問題だから學者先生の批判に譲るが、兎も角も外國の趣味を入れて行くか、又全然日本流にやるか、この二つの道は誰れも其別れ目に立つて大に迷ふ處です。私は外國の趣味を全然排斥するものではありませんが、唯外國と交渉の無いものをもつて、見るに足らぬ時代遅れとするのは大に間違つて居ると思ひます。

好事家諸君が畫を學ぶにしても、其人々の自由に任せたが可いと思ひます。假令は畫を學ぶに人の作つた手本を模寫するのは絶對に



悪いこと、云ふ説がある。併し手本に依らず自由に描ける人もあるが、又手本なしに形の取れぬ人々も澤山にあります。絶対に手本を禁するなど云ふ狭量なことを云はずに、これを用ゐるも亦用ゐぬも其人々の天才に任せた方が可からうと思ひます。

色彩にしてもこれ／＼の色で描けと云ふのは甚だ面白くありません。併し自分で奈何しても色彩の判断の付かぬ人には参考迄に其色彩を示すのは必ずしも悪いことではありません。結局私のこの著書なども教へる本で無くて、唯諸君の参考の一つに過ぎぬ譯です。取るも取らぬも其人の考へ一つですが、これより新しく畫を初めやうと云ふ諸君、又既に始めたが途中で行詰つて立往生の諸君の爲に、比較的最近の私の考を述べた譯なのです。

## 水彩畫に就て

水彩畫は洋畫として奈何なものだなどと云ふ事は、既う今日事新しく説き立てる必要は無いかと思ひます。唯洋畫を始めるに當り、水彩畫と油繪。どちらをやらうかと迷ふ諸君はあるかも知れません。繪具や道具から云へば水彩畫は油繪に比較して簡単な事は既う今日一般に世人の熟知する處と思ひますが、どちらをやつた方が好い畫が描けやうかと迷ふ諸君は比較的未だ多いかと思ひます。

水彩畫は簡單なだけに自然出來上る畫も油繪より淡薄なものが出て來ます。完全に繪として仕上げる方法としては、少しかゝりが複雑ですが、油繪の方が無論適當と思ひます。

今日畫を専門にやる人々が、油繪のみを多く描いて水彩畫を餘り多く描かぬのも、これ又無理の無い話と思ひます。それで同じ畫法で不完全なものなら完全の畫法に極めて了ふて、不完全の水彩畫など至廢するが至當と云ふ議論も出るかも知れませんが、處が畫の方ではさうは行きません。畫は利害得失の側からのみ論ずる譯に行きません。即ち趣味の問題です。趣味と云ふものを解さぬ人々より見れば、實に滑稽に見えますが、趣味は單に實益利害の關係より律する譯に行かぬ事が多く有ります。

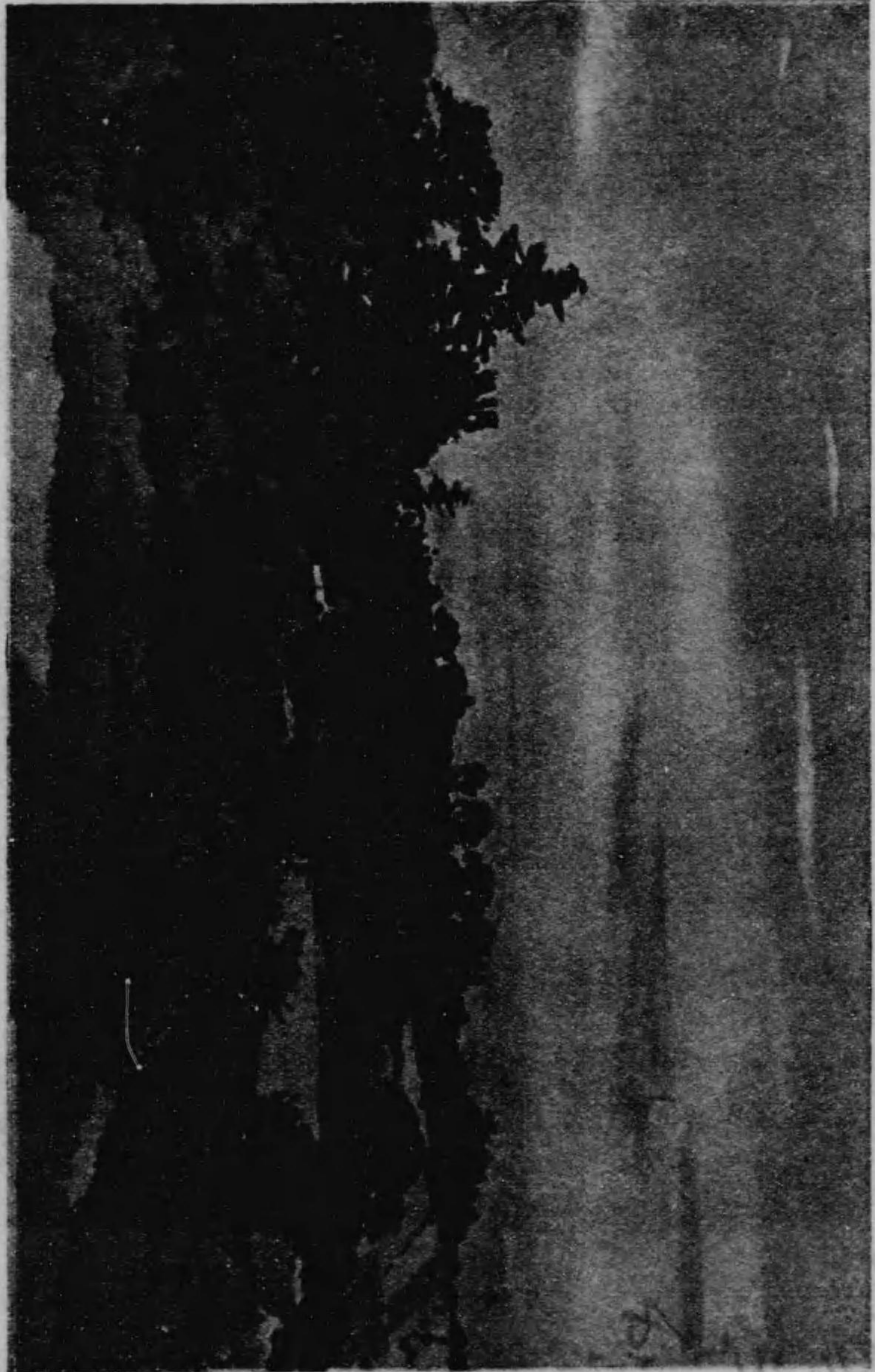
彼の寒い日に河風に吹かれて、川端で寒鮒を釣つてゐる人々を見ては、普通の人々はこれを笑ふかも知れません。併し釣つてる當人は實は笑ふ人々より幸福な氣持を持つて居る人々なのです。金を投じて魚を魚屋より買へば獲物も確かで、寒風にも吹かれず利口なや

り方かも知れませむが、それでは御話にもなりませぬ。

總ての趣味は實利的の眼より見ては、其意味が到底解されぬことが往々あります。少し譬喩が極端でしたが、水彩畫にしてもその通り、畫をやるなら油繪を學んだ方が便利です。唯何となく水彩畫が面白くからこれをやる。其唯何と無く云ふ理屈の無い處に非常に面白い處があり、又貴い點があるのです。

近來は大分に水彩畫を描く専門家も出來て、専門の水彩畫の展覽會さへ毎年盛大になりましたが、これからは益々水彩畫も發達して油繪とは違つた趣味の基礎も建ち、其技術の妙味も愈々發揮することゝ信じます。西洋では水彩畫は斯うですと、一寸西洋の模様も述べたいが、併し好く考へると西洋の模様が奈何でも、別に日本に深い關係は無いやうに思ひます。今日の日本では何事でも西洋が斯う

だから日本もさうで無ければならぬとか云ひますが、西洋が斯うであつても日本ではさうは行かぬ事柄が澤山ある。西洋がさうで無くて日本ではさうで無ければならぬ事柄は大に奨励す可きと思ひます。西洋の模倣は暫く御預けにして、日本は日本としてそれが面白いものなら、自然に進みたいものと思ひます。それにしても水彩畫の畫風が追々變つて、近來は却々面白いものが出来る様です。私の面白いと云ふのは、西洋では見られぬやうな色と描き方で感服するのがあります。大方描いて居る肝心の當人は氣が付かぬのかも知れませんが、こんな調子で進みたいと思ふ畫が往々あります。斯様な作者は、却て西洋などにやらしたく無い、又餘り外國の事を聞かせ度く無い様に思ひます。この儘靜に進ましたいやうに思ひます。専門家ならぬ好事家諸君のうちにも、必ずこれと同じ様な作者が



秋 初

此の畫は、  
 秋の初

此の畫は、  
 秋の初

あるに相違ない。無理にも西洋の大家なり、又流行畫家の模倣をするのは、既う時代遅れと思ひます。今日は安心して自分の感ずる所、信ずる點を平氣で進むで行く時と思ひます。

私は今茲に自分の描いたスケッチを掲げて、其畫に就て感想を述べて諸君の参考に致したいと思ひます。併しこれは決して手本ではありません。これを見て感服して私の描法の様に描く諸君があれば、それでも可し。又こんな描法は面白く無いから他の描法を執らうと、新しい研究をされる諸君があれば更に結構です。善かれ悪かれ參考物が眼の前に出て居ねば問題が起りません。

## 挿畫の解説

## (1) 初 秋

この畫は十月初頃、武州小机邊で寫生したものです。この頃の景色の色は随分重苦しい。緑色にしても軽快な氣持の色では斷じて無い。黄色はレモンエローと云つたやうな軽い色で無くて、クロームエローです。又それにインデゴが混ざつて居るやうな緑色を呈して居ます。觀た感は甚だ重く、餘り寫生家には歡迎されません。處で實際この色の氣持は面白く無いかも知れぬが、併し事實自然そのものはその重苦しい色彩なので、その色が厭なら寫生しない許りです。併しそれが如何に重い色彩でも、日本の十月初頃の景色はこれ

が本統ですから寫生するからにはそれを寫すより外ありません。實際の色彩が面白く無いので、自分の頭で色を想像して描く人があります。私はこんな藝當が甘く出来れば、その人は天才だから決してこれを悪いとは云ひません。唯それが誰れにも出来る仕事で無い。普通の人は矢張天然の色彩通りに描くより致方ありません。これが先づ最初畫に這入る順序かと思ひます。寫生をするには自然に對して遠慮の氣味があつてはなりません、大膽に形も描くし、又色も出すのです。併し大膽と云ふものゝ、あながち筆を大ざつぱに使つたり、無理に強烈の色彩を出す意味ではありません。大膽とは自分の感ずる儘思ふ通りにやるので、世間や他人の批評など氣にしないで描くことです。其人に對しては思ふ存今假にここに風景を細かく見る人がある。

分細かく描くのが即ち大膽なのです。色彩としてもその通り墨に見えれば、アイボリーブラックを使用す可しです。墨の様に黒いと思ひつつ世間を憚つて、紅や青をそのうちに使用するのは大膽とは云へません。樹木の枝が一本一本に見えて面白と思へば、よろしく一本一本に描く可しです。寫眞の様だと笑はれるのを氣遣つて、故意に疎く描くのは決して賞めた話ではありません。

とは云ふもののこれが誰にも容易に出來さうで決して出來無い。元來繪を描く人程神經質の者は無い。又神經質位の感情家で無ければ甘い畫など出來ない。斯う云ふ諸君に向ふて、大膽なれ。吞氣なれ。無頓着なれと云ふ注文は甚だ無理かも知れませんが、奈何しても其時代の風潮に支配され、流行の型に囚はれます。偶々そんな事に頓着なく現れ出た甘い人が即ち天才として新しい藝術を生み出す

のでせう。天才は約束で出るのてない。何時何所から誰がそれとして現れ出るのが解らぬ。だから誰れにしても油斷して居る譯に行かぬ。まさかと思ふ自分がその天才かも知れませんが、苟も畫の筆を執る人々は大に自重して最善の研究を計らねばなりません。

倍てこの景色を寫生するに、先づ初め位置を極めるのですが、これは非常に大切のことで、而も大變六ヶ敷。廣い眺めの景を長方形に纏めるのであるが、この方法は新しい畫の主張を持つ人々は餘り八釜敷云はぬ。然しそれが如何に古い描法でも、最初は矢張一般の法則に従ふた方が這入り易い。

29 景色の内一番高い森とか樹木は、圖の中央に置かずに、右とか又少し左に描くと可い。又それが主眼物になるから、この部分を密に描くのです。其他は比較的筆を省略すると、主眼點か愈々強く現

れて。圖が引締るのです。輪廓を描くに、物の形を餘り細かく描く必要は無いから、その大體を鈞合正しく描けばよろしい。

空は少し曇天ですから、灰色を用ゆるのですが、これはパーミリオンにオルトラマリオンを混ぜた色で塗ります。初め太い筆に水を含ませて、白い雲を描き、その水が乾かぬうちに灰色を塗るのです。さうすると水で描いた雲にその色が軟かくにじむで、調子の可い空が出来ます。

この畫の黄色い部分はベールクロームです。暗い樹木の色は、ベールクロームにオルトラマリオンを混ぜた色です。美しい緑色は、エメラルドグリーンを用いても可いが、強い黄色の上にプロシヤンプリユを塗つてもよろしい。

少し赤味を帯びた樹木には、ガムボーチとパーミリオンを混ぜた

色で描きます。又遠景の森には、ベールクロームとオルトラマリオンを混ぜた色に更にコバルトを混ぜて、その色を出すのです。要するに、この畫には一面にベールクロームが含むで居ますから、最初にベールクロームを全體に塗つて置いてもよろしい。

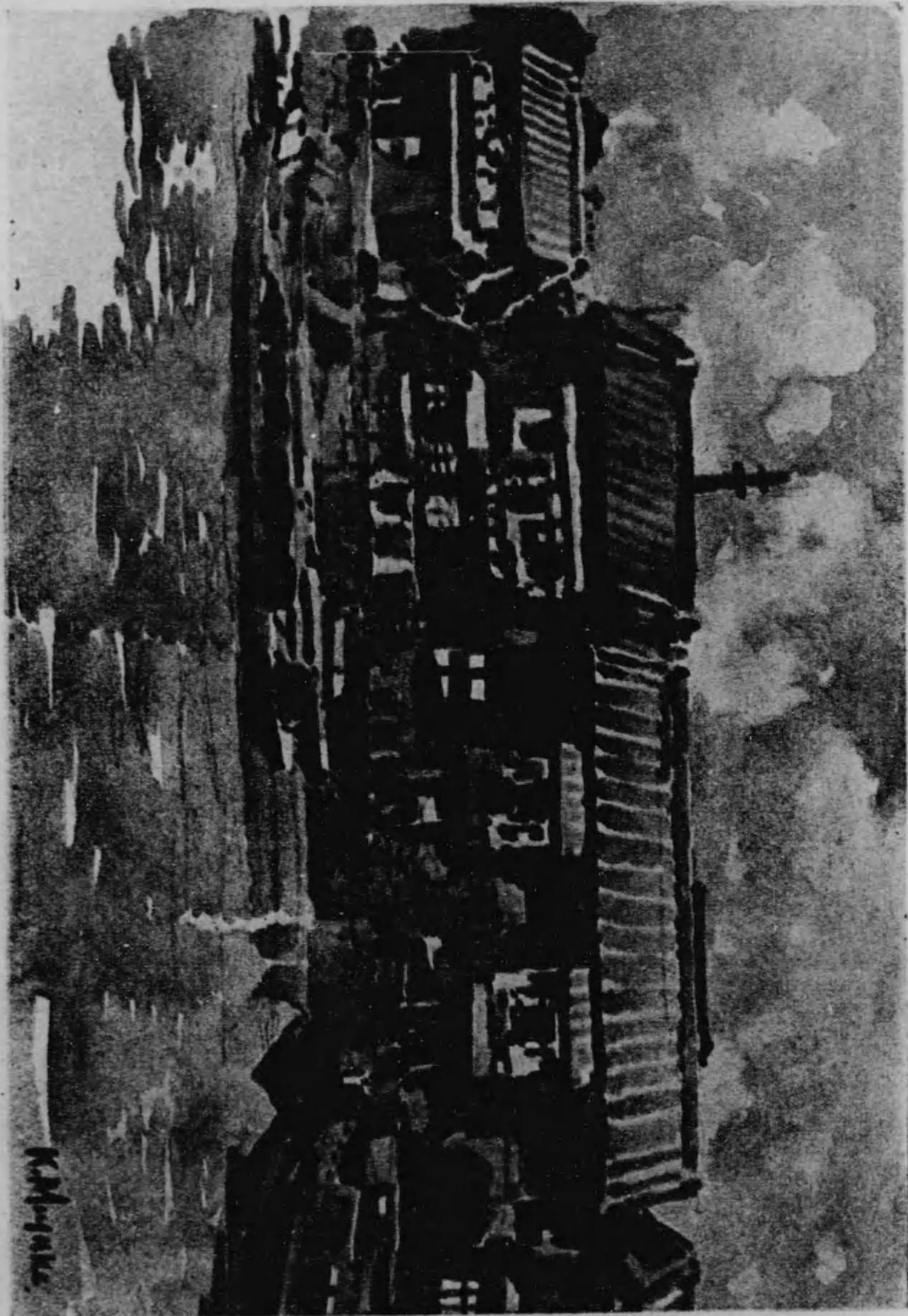
兎に角初秋だから、既う全景が餘程黄色味を帯びて居るから、その氣持を繪具で出さねばなりません。日本の秋は空氣が透明になつて、山でも、森でも、林でも鮮明に見えますから、矢張眼に見へるやうに、鮮明に描いた方が可いと思ひます。故意に最初から自然に離れると、悪い癖が付いて最後迄それが害を致します。

## (2) 靈岸橋の河岸

日本には昔から景色畫として、山水畫を描くことは流行しました

が、町などを描く事は特別の場合の外、餘り多く試みなかつた處で  
 した。然るに近來は市街を圖題としたものが尠く無い。これは西洋  
 畫から這入つた新しい趣味で、近來は日本畫の圖題としても、この  
 種の畫を作るものが尠くありません。一般に建築美の豊富な西洋で  
 は、この種の圖題は容易に得られますが、日本の様な町では、實は  
 洋畫に適する圖題は甚だ稀なので、これを描く困難は一ト通りでは  
 ありません。

西洋の町を畫として寫すには、そこに現れた大體の調子を寫せば  
 それで自然に出來上がるが、日本の町はさうは行きません。細い線の  
 多いのは恰度昔の草双紙の挿繪の様にうるさい。一向大體の調子な  
 どが纏つて居ないから、無理にもその調子を大體に見ねばなりません  
 ん。處が元來が細い線で出來上つてる建築を、大ざつぱに描き上げ



近 附 橋 岸 靈



るのだから奈何しても無理が出て、本當の實景の感じは出ぬ場合が  
あります。無理をすると何んだか西洋の町の畫の様になる。併しそ  
れが實景と遠くても、西洋風に面白ければ今日では寧ろ歡迎される。  
あの人は日本の町を寫生しても、西洋で寫生したやうな畫を描く  
と云つて大に持てる。誠に結構の話ですがこれも亦誰れにも其真似  
は出来ぬ。誰もが其真似をやればぶちこはしに終ります。矢張細か  
くも線がうるさくも、若し多少の面白味がそこにあつたとしたら、  
其細かい線を描き、うるさくも寫して兎も角も實景通り寫生せねば  
なりません。日本の在來の建築物は、主に線を基礎とする日本畫に  
適するもので、大體の色や調子の塊から成る西洋畫には聊か不適當  
な處があるやうです。

38 先づこの場所を寫生するに、鉛筆で輪廓を寫すことが肝要です。

普通の風景に比して、物體の形が正確に現れて居るから輪廓の時其釣合を好く描いて置かぬと、繪具を使用する場合、奈何しても纏りが付か無くなる。だから形は餘程正確に描いて置かねばなりません。特に河岸に繫留の船などは、一層手早く寫生して置かぬと、寫生中消ぎ去る恐れがあるから尙更のことです。然し正確は輪廓を描くからと云つて、屋根の瓦を一枚宛寫し取る必要も無し、又家屋の羽目板を一々描寫する必要はありません。唯大體の物の釣合が寫し取れて居ればよろしい。

最初に雲から描きます。パーミリオンの少量のコバルトを混ぜた色で、初に雲の陰を描き、その色の乾かぬうちに、コバルトで青空を塗ります。青空はこの場合、餘り美しい色で無い方がよろしい。これには最初使用した。雲の陰の色がコバルトの内に少し混つて居

ても差支ありません。

家根から以下家屋の色は、比較的暗い色ですが、この色は別に極つた色でありません。寫生をする人々の眼によつて、夫れゝ違つて見へますから、自分の思ふやうな色彩を、思ひ切つて使用されるは可いのですが、最初色の見當が付き兼ねやうと思ひますから、次に私の使用した一般の色彩に付いて、參考までに述べて置きます。

明るい黄色の部分には、ガムボーチに少量のパーミリオンを混ぜてその色を出し、暗い部分の色は、セピヤにコバルト又ヴァンダイキプラオンを工夫して出しました。總て黄色にはガムボーチを使用しました。暗い色の中にも、矢張その色が含まれて居ますから、それは先きに塗つて置いても可し、又暗い色の中に少し宛混せてもよろしい。

一番暗い色彩は、最後に使用するのです。この時は多少筆を強く使ふのです。この時他の部分の色が調つて居ないと、その暗い色だけが、目立つて大體の調和を破りますから、他の部分の調色が最も大切と思ひます。

それから斯様な場所を寫生するに、一部分宛片端から仕上げて行く描法があります。それは窓の扉を開けたり閉めたり、又河岸の船が何時出て了ふか解らぬ。實景が變り易いと思つた時は、大體の色彩を塗つて居らずに、一部分から描上げる。初めは大變六ヶ敷やうですが、少し馴れば別に困難も感せず、結局同様の結果で無事に仕上ります。

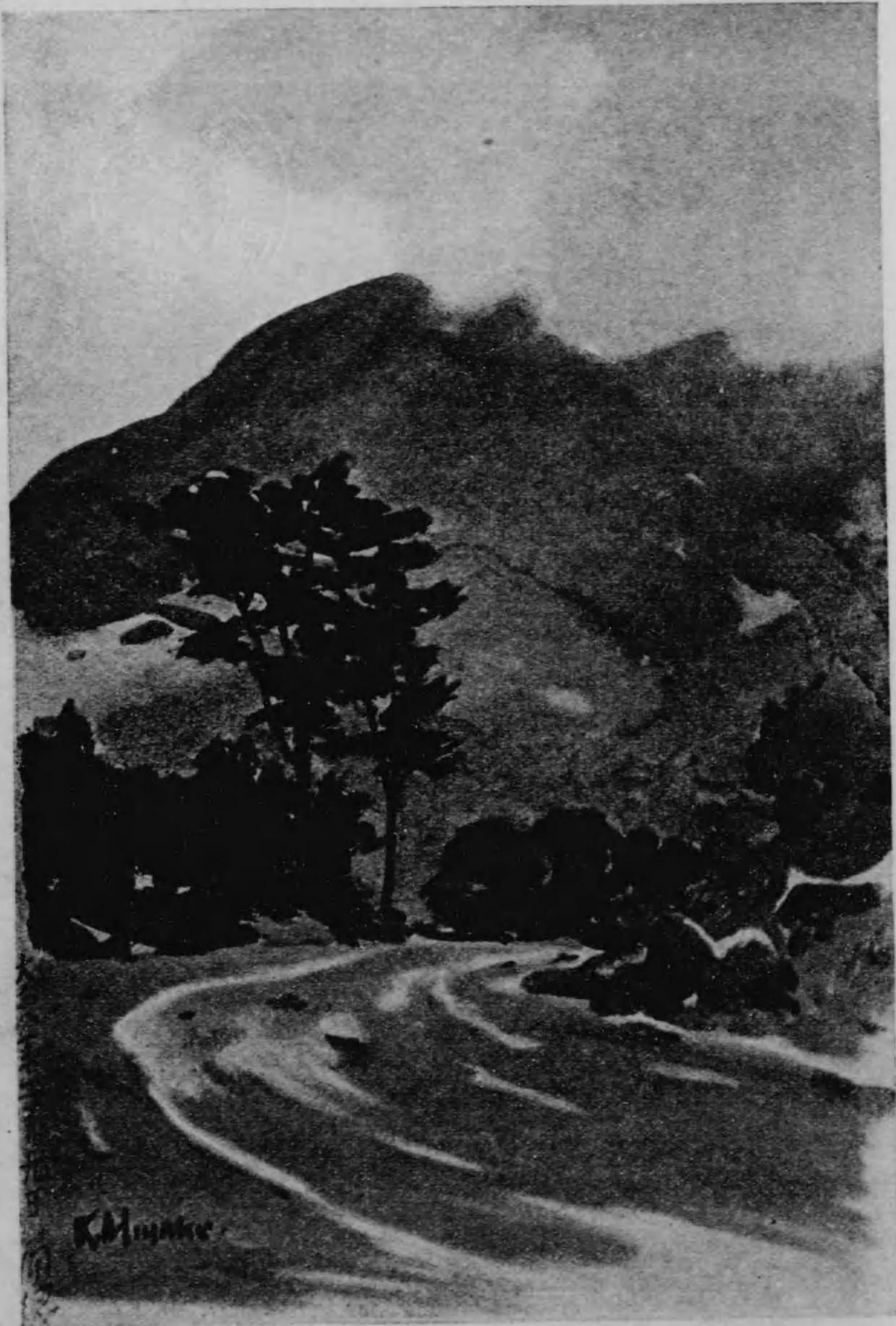
然しこの描法はワットマン八ツ切位のスケッチに止めた方が無難です。私のこのスケッチは、原畫はワットマン十六切大でしたが、

船などは先に色調を計つて、描いて置きました。

それから水面に映して居る家屋の影も、矢張出來れば早く寫す必要がある。光線の工合や風の爲め、且又水面に起る小波の爲め、面白と思つた影の色や形が、忽然と消へて了ふ事があります。さうして其爲めに、全景が一向つまらぬものになる時があります。であるから他のスケッチの場合でも、最初好く考へて、變化しさうな部分は、早く部分仕上をするに限りません。

### (3) 箱根山

この寫生畫は、別段にこれと云ふ深い考も無く、極めて漫然と出來たものです。即ち一寸面白いと思つたから寫生した譯です。出來上つた畫は、矢張一寸面白いと云ふより以上の味は無いのに極まつ



箱 根

て居る。誠に薄つべらと云ふ人もあらうが何もこの種の寫生畫として  
ては悪いと云ふ事は無い。斯様な寫生畫はなるべく手際よくすらし  
と描き上げねばなりません。  
それから箱根山に行つたら、矢張その場所の色彩を寫すのが、普  
通誰れでもが其れを執るを順序かと思ひます。好事家として寫生す  
るには、一層その心得が穩當のやり方と思ひます。  
近來は西洋の大家の描いた版畫を見たり、又其説を讀み自分の頭  
にこれと云ふ一種の眼鏡が出来る、それを透して何所でも描かうと  
云ふ人々が大分にあります。それでも決して他人から彼是干渉する  
事は出来ないが、其人のそれが自然觀だから其人々はそれでも可と  
して結局箱根山のやうな所を寫すに、日本では想像も付かぬ様な色  
彩を用ひ、普通の人々には一向理解出来無い畫を描て得意で居る作

家がある。其人としてはそれでも少しも差支無い。

然し又中には何所までも客観的に外面に表現された其形や其色を寫してそれで満足する作者もあります。さうして出来上つた畫がそれが不幸にして皮相的なもの、淺薄なものとなつても、どうも致方がありません。畫は他人の頭や眼を借りて描くべきもので無い以上は矢張唯一の依頼者はつまり自分です。其自分が描いた畫を自分がケチを付け出す様なら既う畫を描かぬのが、一番安全な方法です。この圖は山に雲がかゝつて居ますが、これを描くのが一番六ヶ敷私はこの畫を描くのに、急いだ爲め輪廓を取らずに描き上げました然しこの描法は誰方にもお勸は致しません。矢張普通は大體の輪廓を描いて置く方が無事です。輪廓が取れたら、先づコバルトを薄く溶して、空を描きます。空は軟い雲てすから矢張其つもりで、硬く

ならぬやうに筆を使ふ。次に山を描くのですが、その色はコバルトに少し緑色を加へるのです。この緑色が實は六ヶ敷いのです。エメラルドグリーンなど使はずに、ガムボーチを混ぜた方がよろしい。コバルトとガムボーチと調和して、自然の緑色を出します。

中景に現れて居る樹木は、これはオルトラマリーンにペールクロームを混ぜてその色を出します。時にはインデゴを混ぜても可い。ペールクロームの代りに、ガムボーチを使用しても差支ありません。樹木を描くに、最初輪廓は描いても、其輪廓を色で單に塗ると云ふ考へで無く、輪廓はホンノ見當を付けたに止めて、繪具で新に描く覺悟が必要です。さうして、早く仕上げるスケッチですから、なるべく細部分に意を留めずに、大體を描く。大體が正確に出來て居れば、額に入れて相當の距離から見て、それが如何にも細かく見へる。

樹木の幹や枝は、セビアにコバルトを混ぜた色で勢よく描きます。

道路の色はエロオーカにコバルトを少し混ぜ、更にパーミリオンを加へてその色を出します。右手の赤土や石は、ライトレッドにエロオーカを混ぜた色でも可し、又パーミリオンにバアントシイナと云ふやうな色を調合して出しても出ます。

要するに畫の色彩は、地圖の色分けや標本の着色のやうに、極まつて居るものでありませんから、假令今私がこゝに其色を説明しても、この色を使用なさいと云ふのでは無く、唯自分は斯様な色を用いたと云ふことを御話するに過ぎ無いのです。故に自然の風景に對しては、なる可く自由な觀方をして、銘々の思ふ處を大膽に描くがよろしい。

尤も初には往々失敗します。容易に思ふやうには行きません。然

しその失敗で初めて工夫が出で、工夫の後多少共に會得する處があるのです。進む可き道には何事にも順序がありませんから、其順序を踏まずに一足飛びに進まうとすると、却て踏外すから落着いて研究することが大切です。

山景を寫生するのは、空の寫生が最も困難です。それには特別の注意が要ります。山に起る雲は、見て居る間に刻々と變化致します。だから最初の印象を充分頭に入れて置かぬと、終まで何の得る處が無く、結局失敗に終ります。

大幅の寫生畫をする時にも、空が出来て居れば、毎日數時間寫生を續けても、中景から前景にかけては、夫れ程の變化がありませんから、其畫は立派に仕上ります。山に遊ぶ時、單に雲のスケッチ、即ち雲を描く色や又繪具の使用法を研究することは、最も肝要のこ

と申さねばなりません。

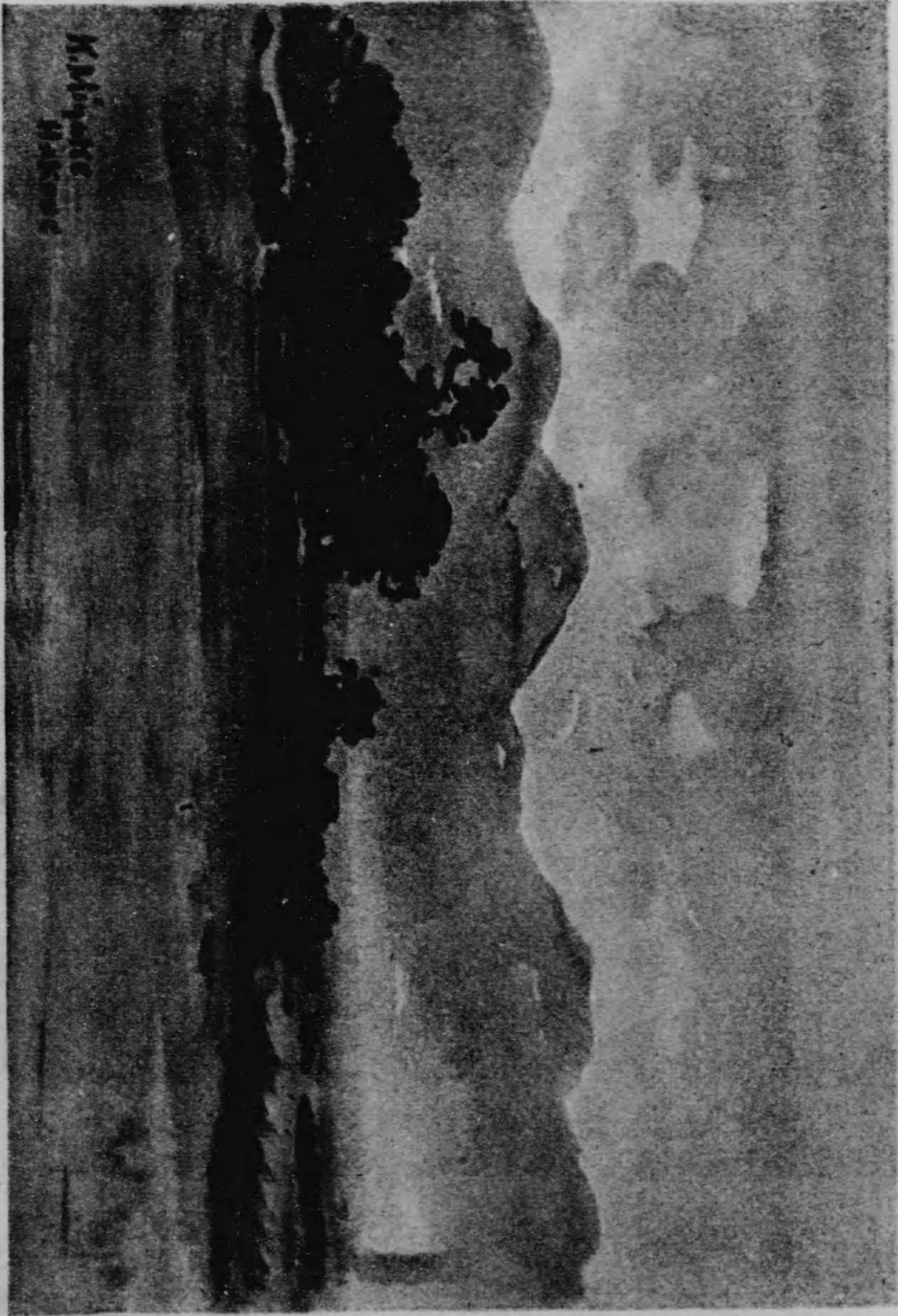
#### (4) 箱根の夕

小田原。國府津邊の夕陽の景色はなかく美しい。日中一向つまらぬ景が夕陽の爲めに非常に面白く見えます。斯様な景は色彩が本位です。形を第二として色彩を充分に出さねばなりません。又色の印象は、長時間保つて居ないから早く寫し終らねばなりません。それに奈何しても小さいスケッチで寫し取るより外ありません。

中には斯様な變化多い景色を、幾日もかゝつて仕上げる人々があります。それが、それ等の人は餘程記憶力の強い人と云はねばなりません。日中の景色は其日が變つてもそれ程の變化はありませんが、朝夕特に夕陽の景などは其時だけの印象で、連日同じ印象を連續すべ

きものでありません。寫生には甚だ困難ですが、その困難な寫生畫を連日續けて立派に仕上げる人がある。これは最初受けた強い印象が頭に残つて居て、それを基として描き上げるのですが、この描法も出来る人と出来ない人がある。

一枚の夕陽の景を描く人々が、最初一枚のスケッチを得て、其スケッチを種として一枚の製作をする人もあるし、又今云つた様な最初より大幅なカムバスなり、ワットマンを野外に擔ぎ出して、其所で仕上げる人もある。何れにも理屈があり何れを正しい描法と極める譯に行きません。何方も正しい描法と云ふ事が出来ず。唯その人々の頭次第で、それが良い事にもなり又悪いことにもなる譯です。それで私の経験から云ふと、スケッチ即ち畫稿から製作する方法が先づ安全のやり方の様に思はれます。寫生萬能で唯寫生を野外で



夕の山根箱



やれば間違は無い様に思ふ人々もありますが、それは場合によりま  
す。實景が既うすつかり變つて居るに、それに向つて野外寫生も餘  
りに無能のやり方と思ひます。

野外寫生は野天で描くからそれが可いのではありません。眼前に  
生きた手本があるから可いのです。然るにその生きた手本が姿を搔  
き消して居ては、其形式のみが野外寫生でも其實は一向價値はあり  
ません。寫生々々と云ひ難しますが、寫生も生かして働かせねば勞  
して効無き事に終ります。

45  
總て夕景を寫生する時、最初先づ其實景に含むで居る色彩を認め  
ることが最も大切です。其色彩と云ふのは、先づ重に黄色です。黄  
色と云つても、唯強い黄色を塗ればそれで可いと云ふ譯ではありま  
せん。其黄が軽い性質の黄か、又重い性質を帯びて居るか、それを

充分に見極めるのです。

私はこのスケッチに、最初に先づペールクロームを溶して、それに少量のパーミリオンを混ぜて空の色を出し、その色で空から遠山續いて中景の森迄塗りました。この時紙は平面にせず斜に前方を高くあげて置く方がよろしい。さうすると塗つた繪具が、次第に下にたれて繪具の乾きが早い。

中景の松の森はペールクロームにオルトラマリーン。パーミリオンを混ぜてその色を出します。最初ペールクロームにパーミリオンを混ぜると美しいオレンジ色が出ます。然しその色は明るい色です。オルトラマリーンで暗くするので、オルトラマリーンにコバルトブリユを用ゐてもよろしい。其時は極めて少量のセピヤを加へて一層その色を重くします。

近景にはペールクロームを一層強く使ひます。然しその黄色が餘り目立つては面白くありませんから、以前に述べたやうな工合に、コバルトブリユ乃至オルトラマリーンを混ぜて、その色を落着かして用ゐるのです。總て斯様な畫を描く時、暗い部分の色にも畫の全體に含まれて居るペールクロームを充分含ませねばなりません。如何に暗い色でも、若しそのうちに黄が含まれて居れば、それが黒いと云ふ感を與へずに、暗い色と云ふ味を現します。

暗い部分の色彩を現すに、その濃厚な色をパレット上にて一度に出して描くのと、又二三度塗つて漸次暗い調子を現すのも二つの方法があります。早い即座のスケッチには、一度に其色を出すより外に途はありませんが、それにしても黒いと云ふ感じを出さずに、深い深味のある色を工夫せねばなりません。

夕陽の景を描くのに、洗つて仕上げる方法があります。これは最初極く普通の描法でその大體を仕上げて置いて、漸次空から繪具を洗つて其色の深味を一層深刻に現すのです。この描き方は、一度で仕上げる譯に行かぬこともありまますから、二三度其場所に行つて描く必要があります。

それで前にも述べた通り、其日の印象はその翌日は多少共必ず變つて居ます。時間から申さば午後六時であつても、前日は空が赤く美しかつたが、其翌日は却て灰色を呈して其色の氣持が全く變つて居る事が多い。斯様な時には前日大體の色を寫し取つてあるから、其色を土臺として寫生を續けるのです。

洗つて描と云つても水で唯洗ふのではありません。即ち空に若しペールクロームとパーミリオンを混ぜた色を使つてあるとすれば、

其色の薄いのを太筆なり又平刷毛に含ませて、空を更に塗るのです。さうすると以前に塗つた紙面の色が、新しい色に混ざつて、何んとも云へぬ色合を出します。山は多少ボケ、中景の森も亦少し軟く調子付いて、却てそこに形容の出來ぬ味合が現はれて來るのです。洗つた爲めに餘り形の崩れた部分は、繪具の乾いた後補筆致します。

### (5) 雪景色

雪景色を研究するのは、奈何しても北國の雪國に行くより外ありません。併し東京邊の雪景色も亦決して悪くありません。研究と云ふより見た景色を軽い意味で寫生する事は誰も企てることで、又斯様な機會は東京などにて屢々あることです。

雪景色の寫生も前に述べた夕陽寫生と同様で、それ程長く手本の

印象を留めて置くことは出来ません。寫生をするにしても、東京邊  
 ならなるべく小幅の寫生に止めるより致方ありません。水彩畫とし  
 て雪景色の寫生は、繪具の乾きが遅く油繪よりも餘程不便な點が多  
 いのです。一概には云へませんが、雪景を寫生するのは曇天の方が  
 都合が可い。晴天は餘り日光の反射が強烈で、軟かい調子も消え寫  
 すに非常に困難を感じます。北國の雪が畫として好いのは、多く曇  
 天勝の處にある様です。  
 雪景は餘り降つたばかりの景色より残雪の方が面白いやうに思ひ  
 ます。見た處は如何にも美しいが、偕て畫とするのには、雪の降り  
 たて程俗氣の多いものは無いやうに思ひます。併しこれは私の考だ  
 から、さうでないと感じられる諸君があるかも知れません。  
 水彩畫で雪を白く寫すのは、奈何しても空を暗く描く外ありませ



色景雪

雪景の写生  
 雪景の写生  
 雪景の写生

ん。又實際さうに違ひ無い。見た雪が如何程白くても、畫の方ではワットマンより白く現しやうがありませんから、空なり又他の部分を暗く描くのは當然の事です。尤も其調子は非常に六ヶ敷いから、唯暗くしたからとてそれで可いと云ふ譯ではありませんが、大體の心得はさう思つて居ればそれで間違はありますまい。

この雪景に用ゐた色は、コバルトブリユ。クリムソンレーキ。ネーブルスエロー。セピヤ等を用ゐました。前景の陰の部分には幾分かパーミリオンも使ひましたが、各種の色彩が混和して出た色は一種の味のある色となります。又バレットに附着して居る色を混ぜ合して偶然飛び立つやうな色を得ることがありますが、私はこの畫を描く時、實はその偶然出來た地味な色を多く使用致しました。寫生に際し、私は別に輪廓を鉛筆で描かずに、直接に繪具で寫生致し

したが、却てその方が實景の氣持を早く寫し取るのに都合が可いと思ひました。

初めにコバルトにクリムソンレーキを混ぜ、その色にネーブルスエローを混ぜた色で、空から描き始めます。ネーブルスエローを混ぜると、紫色を上品に打消すことが出来ます。さうして前景の川縁を描き、大體の調子を描き上げた後に、中景の森を寫し取ります。この描法は一番早いスケッチに適しますが、然し熟練を要しますから、最初から實地誰もが試むるのは、聊か困難かと思ひます。

それで最初は矢張り鉛筆で輪廓を描く必要があります。寫生しやうと思ふ圖柄を紙の上に描いて置けば、繪具を使ふ時安心して寫生が出来ます。斯様な廣い景色は、その寫さうと思ふ圖を極めるのに非常に迷ふことがありますから、自分が果して何所の部分を最も深

く面白く感ずるのか、それから見定めて取りかゝらなければなりません。

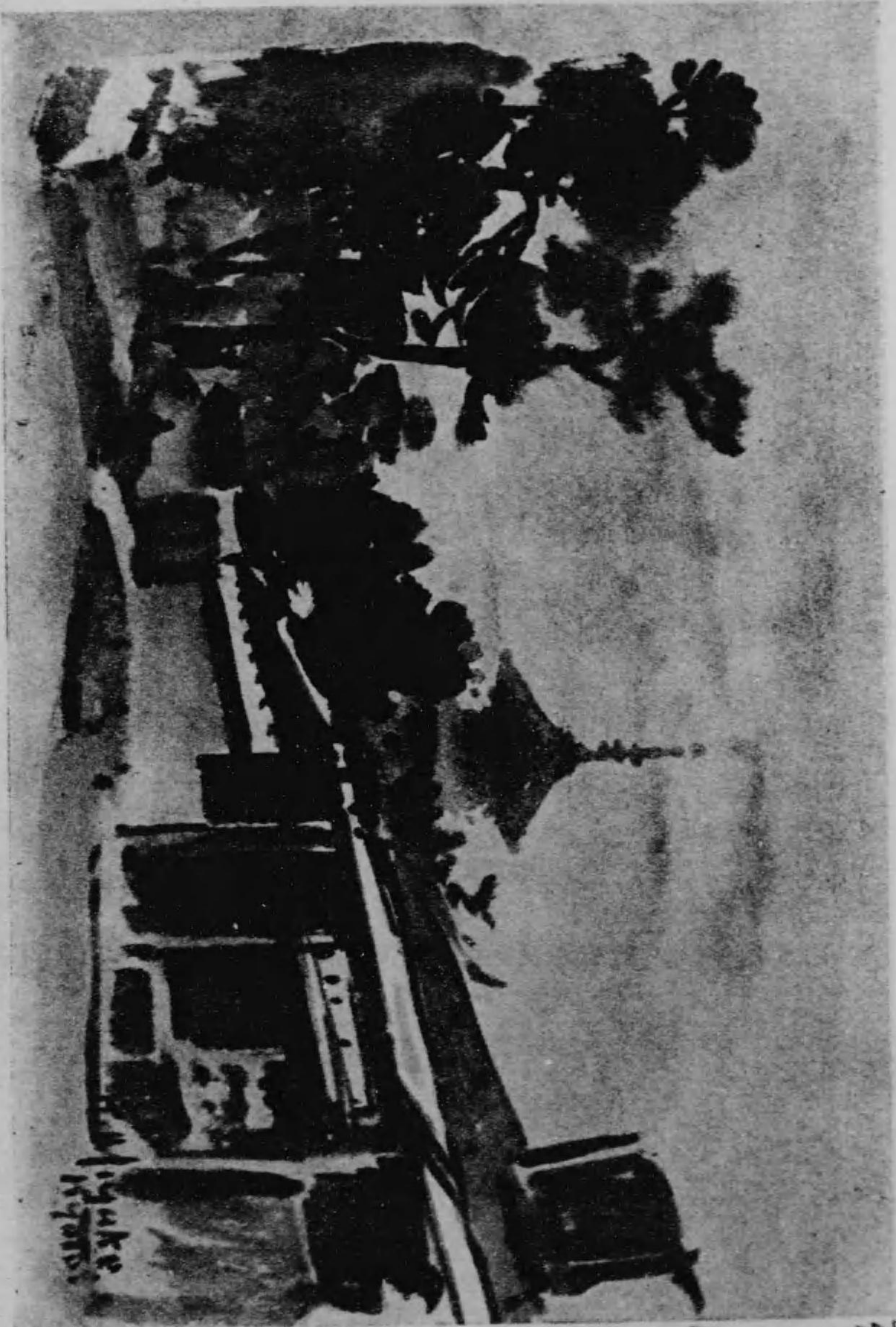
雪景色を描く時、雪を餘り白く現し過ぎると遠近の度が付かず、畫が平面に見へて面白くありません。この畫のスケッチなども、單に白く見ゆる雪の部分に、極く薄い空の色がかゝつて居ますが、この薄い白が最も大切なのです。

この畫の遠景は、相應に軟くボケて居ますが、實景の場合却て明白に鮮か過ぎる事があります。さう云ふ時は、矢張故意にボカさぬ方がよろしい。遠景が鮮明な場合は、中景から前景にかけて矢張其調子で自然が纏つて居る筈ですから、自然の味合は、初心家が勝手に變へぬ方がよろしい。

(6) 京都の町

市街を畫とすることは、前にも述べて置きましたが、新しい町より古い町の方が面白いのは云ふまでも無いことです。だから東京の町より京都の町の方が面白いのは誰れの眼にも同様と思ひます。しつとりとした落着きのある彼の京都の町の色は、確かに寫生の手本としては他で得難き好材料と思ひます。尤も京都も昔と違つて段々新しくなるから、その古い氣分は年々に狭くなるばかりですが、それでも未だ探せば幾分か残つて居ます。私の寫生したこの景は、高臺寺前より八阪の塔を望むだ圖です。勿論短時間のスケッチですが、京都以外の所では斯様な畫は一寸出来ません。

一體關東地方の色彩と關西地方の色彩とは、著しい相違があるや



町の都京

校の... 11月10日... 11月10日...

11月10日... 11月10日... 11月10日...

うに思はれます。繪具で云へば關東地方には水彩畫のセビヤ色が多  
い。處が關西地方では同じ暗い色でも少しコバルト色が混つて居て  
美しい。沈んだ暗い色のうちにも自然軟かな氣持可い色彩が現れて  
居ます。

又一般關西地方の空は落着があつて、關東地方の様に調子外れの  
透明色をして居ません。要するに關東地方の色は冷たい硬い處があ  
り、又これに反して關西地方には、軟かい暖味があるやうです。

京都の空は畫としては、特別に調子が面白い。紅色を帯びた灰色  
の濃い空が朝の十時頃までたて込めます。關東人の氣質より云ふと、  
拂曉間もなく朝暉がキラ／＼と輝きわたるのを悦ぶかも知れませ  
んが、畫を描く人々の眼には京都の朝靄は何んとも云へぬ味を覺え  
ます。この京都の朝靄は恰度巴里の朝靄と其色も調子も似て居て、私



は京都に行つては巴里を思ひ、又巴里に行つては京都を思ひ出します。

それで私がこのスケッチを描いた順序を御話すると、先づ最初大體の輪廓を描き構圖を極め、矢張空から着色します。空には先づエローオーカに薄きパーミリオンを混ぜた色でその全體を塗ります。さうして其色の全く乾かぬうちに、コバルトで空の變化を描きます。然しこのコバルト色は青空の美しい色で無いから、少量のライトレツドを加へて少し色を暗くします。

次にその同色を一層濃くして、塔の屋根を描きます。この時未だ空の黄色が乾かなくて、幾分ニヂム處があつても、それは一向構いません。餘り氣にしてそれを直さぬ方がよろしい。それから森や樹木を描くのですが、この色はサップグライインにインデゴを混ぜ、又

更にペールクロームなど入れた色で描くのですが、ペールクロームの代りにガムボーチを使つてもよろしい。遠近の度合又明暗の加減で、明るい處と暗い處があるから、それは極力注意して實景の調子を誤らぬやうにせねばなりません。其暗い部分にはヴァントシイナを使つてもよろしい。

中央の練塀から右手前の家屋にはエローオーカにペールクローム、更に少量のパーミリオンを混ぜた色で塗るのです。この時白く見ゆる部分は、紙の白地を塗り残して、その色を出すのです。

左手の松の幹や枝や又塀の屋根、續いて家屋の暗い陰の部分の色は、ヴァントシイナにコバルトブリユなどでその色を出しても可いが、又オルトラマリオンにパーミリオンを混ぜた色で描いてもよろしい。唯其色が黒い墨の感を現さぬやうに工夫せねばなりません。要

するに陰の暗い色は、灰色を帯びた軟か味が欲しいのです。若し硬い墨色になつたら、少量のホワイトを混ぜると著しく軟か味を出します。

私のこのスケッチは咄嗟の感を寫した、短時間の寫生ですから、物體の形狀を正確に寫したと云ふより、寧ろ色彩の氣持と云ふ點などを主としたので、未だ多く寫生に就て經驗の無い諸君に對してはこの描法は聊か無理かも知れませむが、寫生畫として味ふには、却て面白味のあることは、容易に會得されやうと思ひます。

序だから述べて置きますが、寫生畫にもそこには色々な意味からこれを描かれる場合があります。物の形狀を正確に寫するのが主眼の場合とも又色彩の氣持を主として寫す場合があります。さうして其人々により、其何れか一方に觀方の偏するのは致方無いので、各

自の描法にそれ々と相違の起るのは無理無い次第と申さねばなりません。

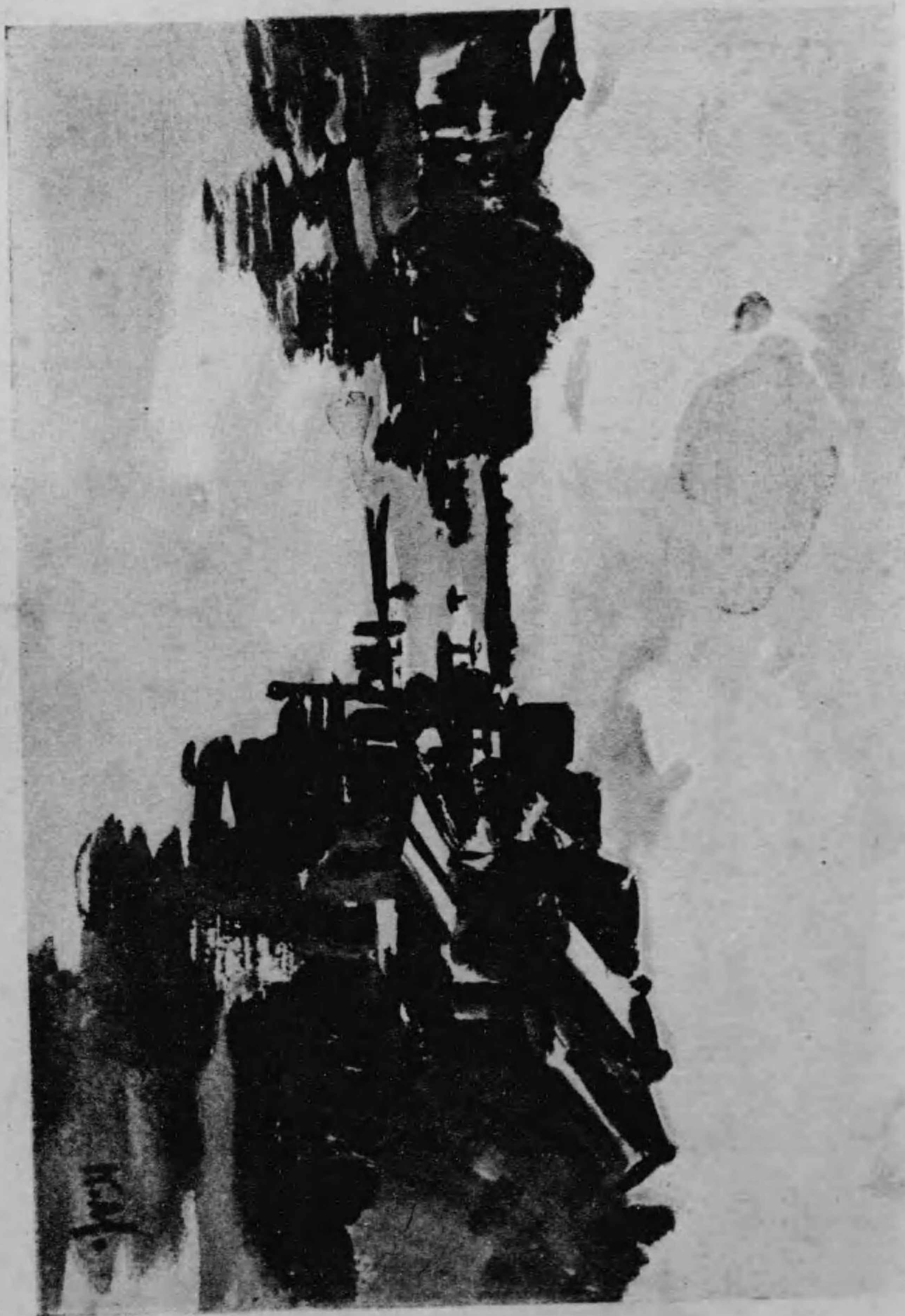
最後に一番濃い色によつて、寫生畫の仕上をするのですが、これは全體の繪具の乾いた後に筆を加へるのです。塔の朱色の部分も矢張後からパーミリオンにてそれを塗ります。それから塚や家屋の暗い色は、グアントシイナにコバルトブリユを混ぜた色で描くのです。これが、これとても決して其色彩が極つて居る譯でありませむから、他の色彩を用ひても、その色の氣持が出れば可い譯です。

(7) 小見川

西洋畫で墨を使ふと云ふことは、一時絶對になかつた。暗いうちにも種々な美しい色彩がある筈、又見える筈と云ふので、墨などは

殆ど顧みられなかつたのでした。處が近來はこの説が破れて往々使用する人々が出来ました、墨を使用しても其使用法が上手なれば、美しい色に見えます。墨で塗つた黒塀が美しい色であるべき筈なれば、墨で描いた畫も又美しい色に見える筈です。理屈はどうにでも捏ね上げることが出来ますが、實際畫を描く上に繪具を制限される程苦しい事はありませむ。この小見川の畫は雨後濕つた家屋の間から白く光つた利根川が見える處ですが、其家屋のうちには確に墨が含まれて居ました。

斯様な黒ずんだ色彩は、前にも云つた通り關西地方には餘り多く見られませむが、關東より東北地方に行くと、愈々多く見かける事があります。黒ずんだ墨色の景色は決して氣持の好い色とは云はれませむが、併し場合によれば大に面白い事があります。



因襲的觀念に囚はれて居る人々は、この景色は非常に面白いが、  
 墨の様に黒いから畫にはいけないと云つて、差控へる人々がありま  
 すが、甚だ可笑な御話ではありませんか。眼で観て面白いと感ずる  
 ものをどうして描いては可けません。尤も今日では既うそんな舊式  
 の頭に支配される人々もありません。それでもまだ往々この考  
 を持つて居る人々が無いでもありません。面白ければセビヤでも、  
 ブラツクでも盛んに使用して大に新しい畫を試作すべきと思ひます。  
 私はこの畫を描くに墨を使ひました。使つた墨に自然コバルトが  
 かけ合せとなり、其色が緑色など、配合して大に面白いと思ひまし  
 た。この景色は雨後で、家屋の家根瓦など、濡れてそれが白く反射  
 して光つて居ります。最初は矢張空より描始めますが、白く現れて  
 居る雲の部分に、太い筆にて水を引きます。さうしてコバルトブツ

ユーに薄きインデゴを混ぜた色で、薄く現れた青空を塗ります。さうして其色で、家根より水面も全部塗つて了います。

これは景色全體の色の氣持を寫すのですから、其色は薄くても最も大切な色で、何んでも自然に近い色を塗らねばなりません。若しその全體の色が灰鼠を帯びた暗い調子の色であつたら、最初塗る水の代りに、暗い灰色を用ゐねばなりません。その場合には畫の調子は、この畫より一層沈むた色調となりますが、それは其時々の場合で、變化の現れるのは當然のことと思ひます。

空と水の色が塗れたなれば、先づコバルトにアイボリブラックを混ぜ更にパーミリオンを混ぜた色で、家根を描き始める。天氣は又今にも雨が降つて來さうであるから、さう優長に筆を執つて居る譯に行きません。なる可く早く寫生せねばなりません。實景には細い

物體が夫れく見えてそれも寫したい處ですが、この場合それ等を描いては面白くありません。何んでも大體の調子を見て筆を大膽に使ふて纏めねばなりません。

私の寫生した位置は、この川に架かつて居る橋の上から寫したのです。橋の上は絶えず往來が激しいから、三脚に腰を下し、畫架など立て、寫生する自由が得られません。そこで私はこの畫も立つて描きました。前にも再三述べてあるやうに、斯様な單時間のスケッチには却てその方が面白い。一氣呵成に筆を運ばせて形狀を寫すと云ふより、其場合の氣持を寫し取ることが大切です。

緑の樹木もこの場合餘り美しい緑には見えません。矢張暗い墨色を呈して居ます。斯る場合は其緑色の色にも多少の墨を含ませねばなりません。家屋が出來、樹木が描けて畫の全體が乾くと、未だ暗

い部分の色の不足を感じます。この部分は全體が仕上つた後に更に其濃い色を加へて描かねばなりません。

その時どうも筆が細く運びたいのですが、矢張出来るだけ大きく使はねばなりません。あの部分に窓があつて、其中が暗いのだと認めても、特別に窓など意識せずに、その部分に暗い色が見ゆると思つて、單に黒い色を其所に塗ります。窓だとか家根裏だとか意識すると、其場合無用な夫等の形を細かく描きたくなりません。

中央に見ゆる船などは、これは何時描くものとも極つて居ない。面白い船が現れた時、早くそれ等を寫さねばなりません。偶然にそれ等を描く機会が、スケッチの纏る可き稍々終りにでも現れて呉ればこの上無い好都合ですが、實際はさう詭向きに行かぬことが多い。

斯様な景色の場合、水面に現れる船は、矢張これも亦調子が暗い。家屋の暗い部分の色調とそれ程の相違の無いのが先づ普通と見てよろしい。斯様な時は家屋に使用する色を出し、其色にて時を定めずに寫し取ります。

### (8) 霞ヶ浦の雨後

空を主にする景色の寫生は、熟練な技術を要します。出来るだけ早くスケッチせねばなりません。物の形などを緻密に見ては居られませんから、鉛筆で輪廓など描いて居る暇はありません。

空の研究は概して夏期が一番好都合と思ひます。面白い空は夏の午後から夕方にかけて好く現れます。私は嘗てその日々の空の寫生を續けたことがありましたが、單に畫の研究と云ふ方面ばかりで

無く、其多數寫生されたスケッチブックは時日を経過して其當時の追懐の種にもなり、他日作畫を試むる時にも、其スケッチブックからヒントを得て新しい製作の圖題を捜さうと云ふ便にもなります。

それからこのスケッチにはインデゴを使用しました。インデゴは矢張一時西洋畫には排斥されて居りましたが、前にも云つたやうに日本の景色にはインデゴが多い。見渡す限りインデゴだと云つても可い程です。インデゴは先づ輕快な色とは云はれません。併しこれも使ひ方次第でそれ程に厭な色でもありません。

廣重の版畫などにはこのインデゴが多く使用されて居ます。空や水などに大膽に使つてあるが、氣持の極めて好い色が出て居ます。廣重の版畫にして差支無い色なれば水彩畫に使用しても差支無い筈と思ひます。唯其使方です。これに他の悪い色を混ぜ合せて悪色を



浦ヶ霞

出しては面白くありません。

それからこの寫生にはガムボーチを使用しました。この色も感心せぬ色として餘り使用されなかつたと思ひますが、日本の風景を描くに黄色として、ガムボーチは最も適當なる場合があります。ガムボーチは單に空の黄色い部分にのみ使用するばかりで無く、樹木や草原などに使つて非常に面白い事があります。

67  
それでこの寫生畫の順序を述べると、最初に水平線から極めることですが、これも近來はそんな事を彼は極めるのは悪い事だと云ふ説があります。然し各自の勝手に放任するが可いと云つた處で、それ等が自然に會得出來得る人もあるが、又容易に出來ぬ人も多くある、天才は極めて少數であるから、先づ解らぬ人々の方が多數な譯です。



私は今少數の天才に向て御話するので無い、多數を占めて居る普通の人々に御話を致したいから、矢強これ迄通り極く普通の御話を致します。總て斯様な風景を寫生する時、第一その景色の水平線の位置如何によつて、其圖柄が生きも亦死にも致します。

この風景の場合としては、圖の中央よりも稍々下に極めた方が可いやうです。圖柄により却て上部にこれを定める時もあるれば、又出來るだけ下部に据える時もある。總てそれ等は主眼とすべき物次第でそれ々と變化致します。

この景色の場合などは、空の雲が主要の部分をおめて居りますから、奈何しても空の部分を多く畫面に現はさなければなりません。若し又水面に船でも多くあつて、水面が主になるとか、又廣い草原で、其所に花が咲亂れて居るとか云ふ場合は、自然水平線即ち地平

線は上部に描かねばなりません。斯様な工合で水平線の位置は、主眼となる可き部分次第で如何様にも變化するものと承知して居れば間違ありません。

水平線が極つて、輪廊が取れたら、空の一番明るい色から塗り始めます。先づ初めガムボーチを溶して空から水面にかけて塗る。次にインデゴに少量のバーミリオンを混ぜた色で雲を描きます。水平線に近い部分には、コバルトを含ませても可い。雨後の空合は變化が多いから、なる可く早く寫生を終らねばなりません。

次に遠景の暗い森の山ですが、この色はガムボーチにインデゴ又コバルトブリュを混ぜてもよろしい。早く仕上げる必要がありますから、一度に濃い色を出して、なる可く一度に描き上げます。續いてガムボーチにサツブグリーンで少し暗い綠色を出して、草原の部

分を描きます。

最後にセビヤに遠山を描いた残りの色を混ぜた色で中央の船を描きます。この圖はこの船で圖を生して居りますが、これは一筆で其の氣持を出す必要のあるだけ、甚だ六ヶ敷、斯くして一と通りのスケッチを終るので、其寫生の目的は全景の氣持を寫し取るのが主眼だから、細部分になる可く眼を配らぬやうにして、何んでも物體を大體に見ねばなりません。形でも、色でも、調子でも、皆其大體を見るのです。然し唯單に大體と云ふと、何んでも無いやうなものですが、この大體が實は非常に六ヶ敷のです。雨後の景は全部に暖い色の感よりも、冷い色の調子を出して居ますから、前にも述べた通り、ガムボーチとガインデゴ多く使つて仕上げるのです。

### (8) 大磯附近

これは夏景色ですが、私は畑中に佇立してこの畫を仕上げました。と云ふのは片手に繪具箱とスケッチブックとを持つて、一氣呵成に仕上げました。文字の達者な人が片手に巻紙を持つて走りがきをしめます。これが机の上で書いたものより却て面白い。私の描法も恰度このやり方です。筆が自由に運んで、畫架を使用し、三脚に腰を下して描いたものより遙かに樂な氣分が現れて面白い。緑の山が見えてもそれが緑の山だなど意識せず。唯ある形をなした緑の模様位に心得て、その色を塗り付けます。山の上に生へてゐる樹木にしても、其通りです。樹木と意識せず黒ずんだある物が列んで居ると思つて、其氣分で點を打つて置けばよろしい。

結局色彩を紙面に塗ると云ふ考を止めて、色彩を其所にはめ込めばよろしい。それが果して奈何に見えるか、一通り仕上げる迄は眼に見えるだけのことを施して置く。この描法は西洋畫を描く本統のやり方で、日本畫など描くのは全く相違して居る譯なのです。色を輪廓内に塗込むので無くして眼に見えるやうに構はず其所にはめ込むのです。近くで見るとは一向其形をしません、相當の距離を保てば其風景が生々しくとして浮き上る。自然の筆意が畫面の上に現れて眞のスケッチのスケッチたる價値を味ふことが出来るのです。寫生もこゝまで漕ぎ付けければ既うよろしい。一點一畫を大切に塗り上げて居る間は未だ眞の寫生畫の意味は解らぬかも知れません。併し最初より斯る描法は誰れにしても企て及ばぬ處ですから、順序として最初はなるべく普通の描法によつて學んで行くがよいことゝ



大 磯 附 近

思ひます。

唯参考までに一通りこの寫生畫の描法や其色彩に就て説明を致しますが、先づこの畫に使用した繪具は空にはインデゴを用ゐました。山や畑地に用ゐた黄色はガンボーヂ。又綠色や其他の暗い陰の色にはインデゴ、オルトラマリオン。コバルトなどを用ゐましたが、これ等の色は使用法を誤ると不快な色調となりますから、私は餘り諸君にはお薦めは致しません。唯私はこの場合無據恣んな色を用ゆる都合となつたのです。

この寫生畫は八月の既う末頃、空には何所とも無く秋の雲が往來しはじめた頃でしたが、其雲の塊が太陽を覆ふて山も畑も一時眞暗に陰となる事がありました。其時の山の色は實際奈何見てもインデゴです。その色は可い色合でも亦悪い色合でも、事實私共の眼には

インデゴに見へました、その又インデゴがその地方のその季節の特色として捨て難い色のやうに思はれます。

斯る時は安心して其眼に見ゆる色を使用して一向差支無いばかりで無く、却て美しく見せむが爲めに他の場合で教へられた色彩などを用ゐぬ方が可いと思ひます。黄色にしても矢張同様の理屈です。ガンポーチは重い餘り美しい色彩ではありません。然し盛夏も過ぎ去つたその頃の山野の緑は、多くガンポーチが含まれて居ます。

以上の色彩が何れも不快な感を與へると云ふので、全然他の美しい色彩を工夫して、其季節の感情を其色で描現すのは決して悪い事でありませむが、何等の研究も工夫も無く、雷動的に時の流行を追ふて、徒に美しい色を使ふて、自然と遠い畫を製作するは、決して譽めた仕事ではありません。

私はこの寫生も最初空から描き始めました。空に現れた白雲には既う多少の黄味が含まれて居ました。それで最初極めて薄いガンポーチとパーミリオンを混ぜた色で白雲を描き、その色の乾かぬうちに、インデゴにコバルトを混ぜた色で青空を塗ります。この場合白雲は絶えず其形が變化しますから、其面白と思ふ形の現れた時、出来る限り早く描き上げねばなりません。

空の寫生が終つたら、次に山の寫生に取りかゝりますが、この時黄色を山全體に塗つて置いてもよろしいが、又其黄色をインデゴコバルトの中に混ぜながら描いてもよろしい。然し早い寫生の場合には、最初に黄色を塗つた方が便利が可いやうにも思はれます。山に生へて居る松や其他の樹木、これ等も出来るだけ其枝振りなど大體に觀なければなりません。山の陰の部分など、小見川の景色

の家屋の陰の部分を描いた時と同様な注意をもつて、一々これは何の木、何の畑だなど、細かい観察をせずに、色彩の一つの塊と認めて、其色を其所に嵌め込むやうに描きます。

結局斯様な写生畫は、眼で観て描くと云ふよりも、寧ろ氣分で描くのですから、其氣分に從ふて自由な筆を使はねばなりません。描く者も氣分本位で仕上たのですから、又観る人々も亦其氣分本位で見なければ解らぬかも知れません。

(10) 牛 小屋

このスケッチは又一層前の氣分で描いたものです。形狀を主とせず、全くその氣分を寫し取つたスケッチなのです。私が嘗て牧牛と題する書を帝展に出品したことがありましたが、この時其風景畫に描



K. Miyake.

き入れる牛を寫生するので、相應の苦辛をしました。奈何しても牛  
 が甘く描けませんので、牛屋に行つて色々な寫生を試みました。  
 このスケッチはその時の寫生の一枚です。牛は彼方此方と勝手放  
 題に歩いて居ます。其動いて居る牛を寫すのだから吞氣らしく輪廓  
 など取つて居る譯に行きません。そこで例のぶつけ書きを試みま  
 した。これと思ふ色を思ひ切つて其所にはめ込みます。斯うなると  
 眼で見ても手で描くと云ふより全く頭で描くのです。パレット面に、  
 これと思ふ色の出たのを認めた上は、眼をつぶつても描けます。出  
 來上つた畫は即ちここに掲げたこの畫ですが、若しこのスケッチに  
 比較して最初に掲げた初秋と題する風景畫を見たら、誰れの眼にも  
 其相違の如何許り甚しいかが解らうかと思ひます。  
 或る人は最初の風景畫を好しとして、この牛の圖を好まぬ者もあ

りませう。私は今自分で其比較優劣論は致しません、畫に這入る順序から云へば最初に掲げた風景より漸次この牛の圖に迄來るのだと云ふことを申して置きます。

唯然し寫生上の注意と其方法に就て、聊か申し述べて置ませうが、牛を寫生するに前にも云つた通り、牛は絶えず動いて居るものですから、出來得る限り早く寫し取る必要がありません。それで私はエローオーカに薄きパーミリオンを混ぜた色で、牛を塗り残してその地面を塗りました。その時牛は白く紙の地色に残つて、牛の大體の形のみがそこに現れます。結局白い毛の牛は、全身白地の儘で塗り残され、その赤なり黒なりの駁は、後からこれを描きます。さうすると、其所に地面の色と、駁の色と、白い毛との三つの調子が現れて、先づこの畫のやうなものが出來るのです。

全身黒い牛は、インデゴ。オルトラマリオンにライトレッドを混ぜた色でこれを描きましたが、これを描くにしても、パレット上に拵らへた色で單に塗ると云ふ考を捨て、それ／＼變化した調子を出さねばなりません。遠方の森は近景の色との調子を計つて、其色を出すのですが、これはインデゴにコバルトを混ぜ、さうしてガムボーチを加へて緑色を出しました。

手前の木柵は最後にこれを描きましたが、これは斯るスケッチの場合、餘り形が鮮明にならぬ方が可いやうです。この色はオルトラマリオンにパーミリオンを混和した色で描きました。前にも述べた通り、この寫生畫は夫れ／＼形狀を正確に寫すのが目的でありませんから、形狀を寫さうとする爲めに、以上述べ來つた色彩の調子を誤つてはなりません。



この寫生の場所は、東京驛より中野に通ふ所謂甲武線の千駄ヶ谷驛附近の牛屋です。時は八月の下旬頃でした。午後六時頃から日没にかけて、乳牛の多數が運動に出て來ますが、如何にも其様が勇ましい。又その色調が落着のある裡に、變化ある美しさを現して、寫生の好圖題です。

然し私は單にこのスケッチの爲めにこの寫生畫を試みたのでありません。即ち他の畫の中に、是等の牛を描き入れる参考として、其畫稿として寫生したのですから、この寫生畫が如何に面白くとも、完成したものとして見る譯に行きません。何所までも單時間のスケッチとして味ふ外無いと思ひます。

このスケッチを参考として、他の畫に是等の牛を描き入れる場合は、このスケッチだけでは未だ不足です。他に一枚形状や濃淡の調

子を寫生した墨繪が要る。それは鉛筆畫でも、亦木炭畫でもよろしい。牛その物の形の正確に寫した寫生畫が必要なのです。其寫生畫は牛を一匹宛寫すのです。色彩を觀ずに全然形を調べて注意してそれを描きます。

然し茲に斷つて置きたいのは、鉛筆や木炭で描く墨繪です。これは最初から誰もが出来る技術でありません。實は繪具で寫生するのより遙に六ヶ敷い。而もこの技術は寫生畫の基本ともなるものであつて、如何に美しい色を出す才があつても、若しこの基本技術が缺けて居たら、到底満足な畫は望まれ無い。研究所でツツサンの稽古をするのは、其基本技術を養ふ爲なのです。

## 用具一般

## 繪具

水彩色を描くにあたつて誰の頭にも浮ぶのは最初繪具と云ふ事です。繪具は奈何な色を使用したら可からうかと云ふことは随分六ヶ敷問題で、これをこれ／＼と極める事は出来ません。未だ畫の事を知らぬ人々は、空の色はこれ。山の色はこれ。海の色はこれと其使用する繪具が解れば、空なり山なり海の色が自然に出る様に心得て居ますが、決してそんな譯のものではありません。同様な色を使用しても其人々即ち作者によりて、皆その色合が違ひます。物の色と云ふものは他の調子の關係から如何やうにも見えるものであるから、何々の色を何所に使はねばならぬと云ふやうな事は決してありません。この理屈は前に述べたスケッチの解説で略氣付かれたことと思ひますが、極めて自由なものなのです。

併し自由なものだからと云ふても、最初未だ一般の心得の無い諸君は、それでは取付く島も無く、見當が付かぬ乗ねます、そこで先づ假に繪具の一般を紹介して置きますが、これは前にも述べた通り、絶對的のものでは無く、其使用する人々の考一つで、その變更は自由自在なことは申すまでも無い譯なのです。

故に一つの繪具箱を買つても甲の人が直に使ひ盡した色を乙の人は一向に使はずに其儘になつて居る場合が多くあります。それで普通ブリキ箱に這入つてゐる十六色入りの舶來品がありますが、最初はこの繪具で充分間に合ひます。追々使用して居るうちに、自分の特別に入用な色の必要が起つて來ますが、其時一個宛買ひ足せばそれで結構です。色の數とこの種類は即ち次の如くであります。

カルマイン。

エメラルドグリーン。

パーミリオン。  
 エローオーカ。  
 コバルトブリユ。  
 ガンボーヂ。  
 ライトレット。  
 ペールクローム。  
 セビヤ。  
 チャイニスホワイト。  
 ブルシヤンブリユ。  
 オルトラマリオン。  
 インデゴ。  
 アイポリブラック。  
 ヴァントシイナ。  
 サツプゲリオン。

先づこれだけの色が這入つて居ますが、勿論これだけの色を皆使  
 用する譯ではありません。それでカルマインは紅ですが、この他に同  
 じ紅色でローズマダー。クリムツンレーキ。アリザリンクリムツム  
 など云ふ紅色があります。皆一々特色があつて、美しい紅色です。  
 色の名は外國語で覚えて居た方が便利です。この多數の色合を區別

する日本語は無いから奈何にも命名しやうが無い。

エメラルドグリーンにしても、綠色として美しい色は他に色々あ  
 ります。コバルトグリーン。カドミウムグリーン。ビリデアンな  
 どがあります。進歩に従つて色の不足を感じた時、試用されると新  
 しい色を得て、又一段技術も上達します。

朱としてのパーミリオンにしても、その通りです。スカレット  
 パーミリオンは、チャイニスパーミリオンより更に美しく氣持はこ  
 の方がよろしい。

白としてのチャイニスホワイトは、他にフレーキホワイトと云ふ  
 のがあります。夫れ程の相違はありません。

85  
 黄色として、エローオーカは、地味な少し燻んだ黄色で、他にゴ  
 ールデンオーカなど略同色があります。この色は別に取り立てて

必要も無いと思ひますから、大概の場合エローオーカで間に合ひます。

水浅黄としてブルシヤンブリユは使用極めて稀ですから、この色があれば他の類似色は不必要と思ひます。

青としてのコバルトブリユは、世間一般人の能く知つて居る色で、晴天などに形容もされ、何れの場合にもコバルトと呼ばれて居ます。佛蘭西の色でコバルトに近く、更に美しいブリユヴェルデチールと云ふのがある。これは非常に美しい好い色です。

群青色と云ふオルトラマリーンは、これは極めて重寶な色です。他にスマルトと云ふ最も美しい群青色があります。

黄色としてのガンボーチは日本繪具の雌黄です。黄色としては未だ他に軽い美しい色があります。レモンエロ。オレオリンなどと云

ふ黄色は特別に美しい必要な色かと思ひます。

インデゴは日本の藍色です。他に同色として殊更に紹介する色もありませんが、日本の景色を平たく寫生するには、この色など奈何しても入用で、手離し兼る色です。併し又ある作家によると、この色を非常に排斥して唯さへ暗い重い日本の風景をこんな色を使ふて寫すから一層不快な畫が出来るのだと一も二も無く斥ける。

ライトレッドは、日本繪具の代赭色です。インデゴと同様甚だ重い色で、使用法が悪いと、不快千萬な色になるから、一寸重寶かも知れぬが、餘り使用せぬ方が無事と思ひます。

アイボリーブラックは即ち墨です。他にランブブラックと云ふ黒もあります。普通の水彩畫を描く場合として、別に使用上著しい差別はありません。

ペールクロームは、カドミウムエロに近い色です。強烈な黄で秋景色など寫生する時、最も多く使用する色です。單にクロームエロと云ふ黄があります、つまりその黄色の明るい軽い色がペールクロームです。

ヴァントシイナは茶褐色で、この色も今日本では餘り用ゆる人が無い。却て外國の畫家の方が用ゐて居る人々が多い。日本の田舎に行き、古い農家など煙に煤けて、このヴァントシイナ色を出して居る。併し日本ではその色で描くと舊式と云ふて人は相手にしません。セビヤは、ヴァントシイナより更に暗い茶褐色です。使ひ方によりては面白い色です。併しこれも重寶なだけに濫用すると不快な色を呈するから餘り多く用ひぬ方が安全です。

サップグリーンは暗い草色で、緑の陰の色などに用ひて大に面白

い。ガンポーチを混ぜれば美しい緑色となります。

繪具の話は先づこれで一通り述べましたが、前にも云つた通りそこには多數の繪具があつても、各自の經驗で其使用の色は自由だから窮屈に極めぬ方が可いと思ひます。

### 畫用紙

水彩畫の用紙は普通ワットマン紙と極まつて居るやうです。使つて見ると矢張調子は悪くありません。其他日本に今來て居る紙で、同じワットマンにも荒目もあれば滑面もあり、又OW紙などもあります。併し畫は紙によるもので無いから、あながちワットマン紙なり、OW紙に限ると云ふ譯でありません。最初稽古のうちは普通の畫學紙でも差支ありません。

唯ワットマン紙は紙質が非常に硬いから、洗が利きます。洗と云

ふと不審を抱かれる諸君があらうと思ひますが、これは餘り色彩の濃き部分を薄くする爲に、筆や海綿などで洗ふのです。他の普通の畫用紙では、斯様な細工をされては堪りません。繪具は紙面から皆洗ひ去られて了ひ、又紙は多量の水分で磨擦せらるゝ爲に穴があく。そこでワットマンであると、先づ其様な心配は少ない。樹木なり家屋なりを明白に描てそれを消す爲に、濡た海綿で拭き取つて了ふことも自由自在で、實に重寶な紙です。又其他強い光を現す爲に、ナイフを以て紙を削り取ることも出来ます。

一例を掲げて御話すれば、今茲に暗い樹木を寫す。處が樹木の隙間から空の見える處など、最初から一々これを描く譯に行きません。然る時は最初寫生を爲る際、唯其大體を描て置て、全く出来上つた後其微細な部分をナイフを使ふて手際可く削取るのです。黒い暗い

部分に強い明るい調子が現れたのであるから、宛で空が光つたやうに見える。其時削つた儘の純白では面白く無いから、薄きコバルトなり、ブルシヤンブルーを其削つた白き部分に着色をする。さうすると其白き點は丁度空が暗い森を透して見ゆるやうになる。

此の細工は、何もワットマンで無ければ出来ないと云ふ限りは無いが、他の紙では安心して試むる譯に行きませぬ。今はからずも此所に洗つたり削取つたりする御話が出たから、ものゝ序にその方法に就て今少し御話を試みやう。

紙に塗つた繪具を洗ふのに二つの場合がある。一つは過失から繪の修整を爲る場合と、他の一つは空氣などを現す爲、或は又煙などを畫く爲めに特に繪具を洗ふことです。初の場合は別として次の場合には、最初夫等の手法を後で試むることを承知して、着色をやつ

て置く。さうして若し朝の朦朧たる霧でも現さうと思ふ場合には、  
 豫め畫いた山なり家屋なり將又森なりの上を濡れた平筆で靜かに輕  
 く擦る。すると紙の目が一體に現れて来て、宛で霧の様に見える。  
 煙などを描くのは濡れた海綿で擦て、更に吸水紙でその色を吸ひ取  
 つても可い。兎に角斯様な細工を施すには、ワットマンは實に都合  
 の好い紙と云はねばなりません。

併し茲に又注意して置きたいのは、ワットマンは確かに水彩畫に  
 適當なる紙であるが、極めて短時間のスケッチ、假令は繪はがきに  
 でも爲やうと云ふ水彩畫の寫生には、ワットマンより普通の紙の方  
 が寧ろ描くに容易である。斯様な場合小版のワットマンに寫生爲る  
 と、繪具の伸が悪い。水を弾く憂がある。普通の畫用紙になると其  
 様な心配は無い。これは諸君が實際經驗されたら直に分ることと思

ふ。

水彩畫に木炭紙を使ふ人があるが、淡彩には甚だ妙である。併し  
 紙が繪具の爲に膨脹して、畫面全體に皺を生ずる場合が往々あるか  
 ら、幾分か描寫に困難を感じる事が無いでもありません。木炭紙は  
 餘り仕上つた繪には適當せぬやうです。一度塗つた色が次に塗つた  
 色彩の爲に、浮き出して來るやうなことは、木炭紙の癖である。木  
 炭紙は矢張木炭畫の爲に拵へたものだけに水彩畫には不適當のやう  
 です。

## 畫筆

それから此度は筆の事を話させよう。畫筆は前にお話を爲た繪具  
 箱を買へば其中に二三本は附屬して居ます。併し使用に堪ゆる筆は  
 先づ極めて稀と云ふて可い。そこで奈何しても別々に買ひ求めねば

なりませぬ。ところが此筆が繪具屋に注文爲て何の筆も皆工合が可  
いかと云ふと、一口にさうは云へ無い。畫筆程出來不出來のあるも  
のは無い。

諸君の中には高い金を出して、一本上等の筆を買ふたが、極めて  
工合が悪く、又古い筆を取出して使ひつつ繪具屋の不都合を責めら  
るゝ諸君もありませう。併し腹も立たうがそれは必ずしも繪具屋の  
罪のみで無い。畫筆は奈何しても多數の中から一々撰擇せねばなり  
ません。處が妙なことにはその工合の悪かつた筆が、何時ともなく  
急に使ひ慣れて、極めて手頃の筆となることが往々あります。之は  
諸君も實驗された事と思ひます。

寫生に要する筆の種類はその數は、左の四種類あれば差支無い。  
細筆(3號) 一本

中細(5號) 一本

太筆(9號) 一本

平刷毛(幅一寸位) 一本

平刷毛を除いては號數があるからそれによれば間違はありませぬ。  
唯餘り安い價のものを買はぬ様に注意を願ひたひ。安い筆は最初使  
ひ初めは少しも別に變つた處を見出さぬが、幾分か使つて居る中に、  
筆の穂先がブツツリと擦り切れて了ひます。若しさうなつた上は、  
最早如何とも致方が無い。そこが少し價の高い品になると、前に御  
話を致した通り、擦り切れて却て使用に工合の好くなる事がある。  
一文惜みの百損と云ふ世諺がありますが、これは實際畫筆の上にも  
適要される一つの眞理であります。

筆は平素使ひ慣れたのを用ゐるに越したことは無いが、筆も繪具



の様な按排に、時々其使用する筆が變る事がある。勢ひその爲に畫風も多少變化爲ます。偕てその間にあつて心懸け置くべきは、斯る部分を描くのは如何なる筆を如何に使用すれば可いかと云ふやうな事を研究爲て置く事で、これは最も肝要な事柄であります。

鉛筆。畫板。日傘。

以上繪具と紙と筆の一斑に就て御話を爲しましたが、此三品が揃へば先づ繪は描けるものであります。併し實際描く段になると、未だこれだけの道具では少し不足であつて、色々他に要用の品が要る。先づ第一に繪具で描く前に、輪廓を描て置く必要がある。輪廓を描くには木炭或は鉛筆が要る。又紙に描く時紙を張付ける板が要る。即ち畫の方で畫板と云ふて、これは是非無いと不便であります。其  
他筆を洗ひ又繪具を溶す筆洗が要る。筆洗には水は附物であつて、

自然水筒が無くてはならぬ。尙畫板に紙を留める紙が要る。それから是等の諸道具を入れる畫囊が必要です。其他野外で寫生する時腰を掛ける三脚床几が入用です。若し其上完全を願へば畫板を立掛ける畫架も要れば、又日傘も欲しくなる。斯うなると寫生の道具も却々一揃するまでには容易の事ではない。

併し若し輕便主義を實行すれば前に述べた繪具。筆。紙だけを買ふて、他の品物は先づ買はなくても間に合ふかと思ふ。現に自分が未だ鉛筆畫の初歩を學んで居た時、先生に内證で野外の寫生に出掛けました。以上の三品だけを買求めて他の物は、皆一時の間に合せて盛んに寫生を試みました。後になつて見ると、其時爲た寫生畫の方が他日立派な器具を構へて試みたものより、遙に優るものがある様に見受けました。

今諸君の参考にもならうと思ふから、自分の使用した間に合せ手段をお話致します、先づ鉛筆は普通のもので充分間に合ふから、特別に買ふ必要が無い。畫板は自分の家の戸棚に投げ込んであつた、菓子折の蓋の稍大きさを利用しました。筆洗はインキの空罫で結構である。唯自分は針金を罫の口に取り付けて、繪具箱の一端に引掛けるやうに工夫しました。それから紙はその折の蓋に水張をするから、別に紙などは不要である。

一つ困つたのは腰掛の一段であつたが、他に何とも工夫がつかぬから、最初は六七寸四方の板を持つて歩いて、それを地面の上に置いて腰を下した。堅き板の上だから、卅分以上にもなると随分尻が痛む。時には繪に夢中となり、一時間乃至二時間と懸命にやつて居て、イザ立たうとなると、尻から内股にかけて痺が烈しく、急に立つ事

が出来ぬやうな事があつた。斯様な時には随分困つたが、併し何時も其場所の地形を利用して、石でもあれば其上に板を乗せて腰を下す。又草でも生へて居れば直接に草の上に腰掛ける。それから次に油紙などを敷て腰掛けた事もあつた。併し是は板よりも具合の好き場合もあつたが、携帶に始末が悪いから又元の四角な板に爲ました。その他畫架とか日傘とかは、小さいスケッチには別段に入用は無い。若し日傘が要する時は普通の洋傘を代用すれば充分です。先づ斯様な譯で輕便主義を實行しても、別段に製作の上には夫程變りは無いやうです。併し諸君のうちで一通りの道具を揃えやうと思ふ方があれば、揃へて置くに越した事はありません。

寫生の時日本では是非腰掛を用ゆるやうになつて居ます。處が西洋人は比較的腰掛を用ゆる者が少い大陸即ち佛蘭西人を初め獨逸人

でも伊太利人でも多く立つて寫生を爲る。英國人は又多く腰掛を用ゆる腰掛を用ゐた方が落着いて正確な線を引いたりするのに便利かも知れぬが、其代り面白い自由な繪を描くには却て不都合かも知れません。

私の描いた『初秋』は即ち腰掛を用ゐて寫生したもので、『大磯附近』や『牛小屋』は立つて描いたものです。私は今その何れが可いと茲に斷言は出来ませんが、寫生畫としては立つて描いた方に却て面白いものがあるやうです。

巴里附近で寫生して居る畫家を見ると、畫架は用ゆるが、腰掛を用ゆる者は殆ど稀です。前にも述べたやうに、私は決して巴里の眞似を勧めるものではありませんが、立つて描くと云ふことは非常に自由で可いやうに思ひますから、参考までに御話して置きます。



へ人ぶ學を繪づみ

大正十年十月一日印刷  
大正十年十月五日發行

〔定價一圓六十錢〕

著作者	三宅克己
發行者	東京市神田區錦町三丁目五番地 林泰
發行者	東京市本郷區眞砂町二十五番地 市川七作
發行者	東京市神田區錦町三丁目五番地 極光社
發行所	東京市本郷區眞砂町二十五番地 日本藥學會

(番一二七三京東替振)

印刷人 東京市芝區愛宕下町二丁目四番地 根本惣三郎  
印刷所 東京市芝區愛宕下町二丁目四番地 就文社

# 滅び行く家

若月紫蘭氏第一脚本集

無自覺な利己主義物質主義の剛腹な田園の富豪を大陽として、之をめぐる純潔可憐な少女や精神主義に「覺めた男長や頽廢的な次男や其他幾多の惑星は此の一個の太陽系統の間に錯綜せる波瀾を捲起して人間の物質的安住の場所たる「家」が如何に痛ましく滅び行くかを描けるも猶來べき社會問題の如何に呪咀すべきかを諷し題にも觸れんとし結局新なる世界に於ては單なる物質主義因襲主義の遂に破滅に終るべき新理想主義者たる著者最近の大悲劇である。現代に對する一個の爆弾として、廣く江湖に薦む。

定價金一圓  
送料四錢  
四六版二百餘頁

極光社

# サロメ

オーストリアカスパー  
若月紫蘭氏改作

ワイルドは實に近代官能的耽美派の曉將にしてサロメは實に彼が一代の傑作である。此作を評し井リム、サチヤはワイルドの此作を評して「音樂であり繪畫であり詩である」といふ譯を得て至言であつて近代文藝を知らんとするもの、味はざるべからざるもの、改譯して會心の譯を公にして嫌らす今又之を改譯して會心の譯として問ふ。詩に酔ひ音樂に酔ひ繪畫に酔ひんとするものは。來りて一本を求めよ。附録として「アンドレ」の隣人の愛を載せたり初版忽ち賣盡して再版を強ゆるは現代人士の要求の一端を語るものにあらざるや

四六判  
定價八十五錢  
送料四錢

極光社

# 性慾の心理

澤田順次郎先生著

シルレル氏の詩に曰く哲學は世界を支配すれども、之を動かすものは、飢と戀となりと。宗教の力にても、將た道德の力にても到底性慾を禁絶すること能はざるは、宗教道德の根帯は、性慾によりて築かれたるが故なり。

本書は右の理由の下に、性慾の原理、起源發達及び教育との關係等に就き之を心理、倫理、宗教社會等の各方面より論じたるもの性慾問題の姦しきとき解決の鍵を與ふるものは本書なり。教育家、道德家、醫師は勿論一般人士も一讀せざるべからず。

菊版布製四百五十餘頁  
定價金貳圓六十錢  
送料金十八錢

極光社

395  
195

1128

終